

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（山口県立大学）

国際文化学部 国際文化学科

2019年度：合計47単位（全学教育25単位）（学部共通8単位）

省令で定める単位数等の基準数相当分（以下14単位分）

科目名	単位数	授業内容
異文化交流論	2	旅行者やグローバル展開する企業等の海外赴任経験者を講師として招聘し、海外赴任時の経験を基に異文化適応に必要なスキル等について考える授業を行う。
国際関係論	2	在外公館職員としての勤務経験を持つ教員が、国際関係をテーマに授業を展開する。
Global Issues	2	在外公館職員としての勤務経験を持つ教員が、国際関係をテーマに英語で授業を展開する。
Introduction to Buddhism	2	住職経験のある教員が、仏教学の知見を踏まえ、仏教に関する基本的な知識を講義し、各自が属する社会の宗教文化や異文化の宗教の理解を促す授業を行う。
国際経済論	2	国際開発の実務経験を持つ教員が、自らの経験をもとに国際経済について講義を行う。
NGO・NPO論	2	地域で活躍するNPO実務家をゲストスピーカーとして招き、学生とのディスカッションを通して地域における大学とNPOの役割について考える授業を行う。
欧米外交史	2	在外公館職員として欧州での勤務経験を持つ教員が、自らの経験に基づいて国際関係史について授業を展開する。

科目名	異文化交流論			コード	HI0001a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	2	1	後期							
担当者名	岩野 雅子										
<b>授業概要</b>											
<p>さまざまな文化相互の交流について学ぶことを通して、国内外の多様な人々への理解と共感、また想像力や寛容性を養う。文化のグローバル化が進む今日における諸課題をとりあげ、つねに地球市民として対応できる知識と態度を身につけることを目指す。授業ではICTを活用した事前事後課題をだし、討論やグループワーク、ワークショップ等も交えて、主体的な学びの習慣を身につける。</p> <p>【実務系科目】 旅行者やグローバル展開する企業等の海外赴任経験者を講師として招聘し、海外赴任時の経験を基に異文化適応に必要なスキル等について考える授業を行う。</p>											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
<p>想像力、理解、共感、寛容性を身につけ、地球市民の概念を認識することを通して国際教養を涵養し、異文化交流に必要な能力やスキルについて学びながら、専門教育への動機付けを行なう。</p> <p>多様な視点から文化を理解することができる。文化の違いを超えた対話に関心と意欲をもつことができる。課題解決にむけたチームワークができる態度が身につけている。専門性に繋がる課題発見をする。</p>				<p>授業参加と小テスト：30%、レポート（2回）35%、最終試験35%</p>							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 多様な視点から文化を理解することができる。				15	0	0	0	15	0	0	0
(2) 文化の違いを超えた対話に関心と意欲をもつことができる。				20	0	0	0	20	0	0	0
(3) 課題解決のチームワークができる態度が身につけている。				30	0	30	0	0	0	0	0
(4) 専門性に繋がる課題発見をする				35	0	0	0	0	0	35	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) オリエンテーション：越境の仕方</b>											
<p>地理的なボーダー（境界）や心理的なボーダーを超えるという科目のねらいや身につけてほしい事、15回の授業の進め方について説明する。評価指標となるルーブリックの説明と質疑。</p>				<p>第1章「異文化を理解する」、新やまぐち学第1章を読み、課題をやってくる。</p>							
<b>(2) 日本文化は海外からどのように見られているか</b>											
<p>クールジャパンという文化の発信方法や、インバウンド観光促進のために日本文化が英語でどのように発信され、受け止められ、交流を生んでいるかについてみる。</p>				<p>第2章「文化とは（その1）」、新やまぐち学第2章を読み、課題をやってくる。</p>							
<b>(3) 国際語としての英語</b>											
<p>アジア（インド、シンガポール、マレーシア、タイ、中国、韓国、台湾等）で話される多様な英語について資料をもとに調べてきたことを討論し、これからの日本人が英語を使ってどのような分野で活動すべきかについて話し合う。</p>				<p>第3章「文化とは（その2）」、新やまぐち学第3章を読み、課題をやってくる。</p>							
<b>(4) 日本文化を英語で発信する</b>											
<p>外国人が見た日本文化について書かれた本や、日本文化を英語で紹介する本や資料、動画等を見た上で、日本文化から一つのトピックを選び、英語で日本文化を紹介する文章づくりをする。</p>				<p>第4章「異文化適応」、新やまぐち学第4章を読み、課題をやってくる。</p>							
<b>(5) 異文化交流のルール・マナー</b>											
<p>外国人接遇マナー、社交、国際儀礼（プロトコール）など、異文化交流で決まりごととなっているものについて学び、スキルアップする方法について知る。ミニレポート①（英語で日本文化紹介）を提出する。</p>				<p>第5章「シミュレーション」、新やまぐち学第5章を読み、課題をやってくる。</p>							
<b>(6) 異文化適応能力について</b>											
<p>カルチャーショックや異文化間コミュニケーションに必要な言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションスキルについてみていく。</p>				<p>第6章「違いに気づく」、新やまぐち学第7章を読み、課題をやってくる。</p>							
<b>(7) 異文化接触のコンフリクト・マネジメント</b>											
<p>異文化接触に係わる摩擦や紛争を解決するコンフリクト・マネジメントのスキルについてみていく。ミニレポート①の返却。コメントに沿って書きなおしたものを再提出する。</p>				<p>第7章「異文化の認識」、新やまぐち学第13章を読み、課題をやってくる。</p>							
<b>(8) 世界に出た日本人（明治維新150年の遺産を継ぐ人々との出会い）</b>											
<p>明治前後の密航留学生（長州ファイブ）に関する日英交流を行い、英語スピーチコンテストを実施している地域講師を招き、実際のスピーチ素材や出場者の動画等も交えながら意見交換を行う。</p>				<p>第13章「非言語コミュニケーション」、新やまぐち学第14章を読み、課題をやってくる。</p>							

<b>(9) 世界に出る日本人（現代）</b>	
海外留学や海外赴任者を地域から招き、異文化適応力や異文化コミュニケーション力、英語力などのスキルについて考える。特に英語で発信する力や国際教養力についてみていく。	第14章「アサーティブ・コミュニケーション」、新やまぐち学第15章を読み、課題をやってくる。
<b>(10) 日本で暮らす外国人（内なる国際化）</b>	
先住民族やオールドカマーの課題をはじめ、1980年代から急増したニューカマーの課題についてみていく。特にバイリンガル、バイカルチュラルな子どもたちの教育について考えるため、地域で暮らす外国人を招き、多文化共生社会の具体的問題について討論し、理解を深める。	第10章「異文化トレーニング」、新やまぐち学第17章を読み、課題をやってくる。
<b>(11) 日本で暮らす外国人（地域の国際化）</b>	
自治体国際化協会の進める姉妹都市交流や、アメリカ・イギリス・オーストラリアなどへの青少年の海外派遣事業、民間団体の国際交流、総務省の推進する多文化共生社会づくりについて学ぶ。	第11章「異文化受容」を読み、課題をやってくる。
<b>(12) バイリンガル・バイカルチュラルの人々</b>	
2つ以上の言語や文化をもつことで広がる可能性について考え、大学時代の海外への留学などをきっかけにバイリンガル・バイカルチュラルになった体験者を招き、交流を通して、2つ以上の文化に生きる人々が直面する諸課題について理解を深める。	第12章「自分を知る」を読み、課題をやってくる。
<b>(13) 物の文化史・交流史</b>	
日常生活を取りまく物を通じた文化の創られ方や物の交流史についてみる。特にイギリス文化からアメリカ文化がつけられたプロセスと、西洋文化をもとにつくられた近代日本のプロセスとを物の文化史からみた上で、人の交流が文化を生むということについて考える。	第8章「差別を考える」を読み、課題をやってくる。
<b>(14) 人類のルーツ</b>	
現在、さまざまに異なる言語、民族、歴史観や世界観、価値観などに分かれた人類（ヒト）のルーツを振り返りながら、人類（わたしたち）の未来の可能性について考える。ミニレポート②（授業やテキストで学んだことをマインドマップにまとめると評価ルーブリックの説明。	第9章「世界の価値観」を読み、課題をやってくる。
<b>(15) まとめ：授業を通して学んだことを自分の言葉で発信する</b>	
作成したマインドマップを比較しながら、授業を通して学んだことについてグループで話し合う。異文化交流での学びの到達をふまえ、これから大学3年間で目指すことや具体的計画について考える。ミニレポート②の提出。	授業で学んだことのマインドマップを仕上げ、それを踏まえてミニレポート（2）を書き提出する。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
テキストは2冊使用する。『グローバルな時代を生きるための異文化理解入門』（原沢 伊都夫著、2013年、研究社）を予定しているが、新刊される書がある場合は、変更について事前に周知する。また、COCブックレット新やまぐち学シリーズ8『つなぐ・つくる・こえる—山口のあらたな光を観るために』（山口県立大学）を使用する。	毎回、授業前にテキストを読んで、小テストを受けてから授業に出席してください。授業は大教室ですが、アクティブラーニングの手法を取り入れて行います。英語教職（中学、高校）異文化理解の科目です。
<b>受講生へのメッセージ</b>	
異文化理解、自分の文化の他者への発信、自己の向上、積極的に行動に出る態度など、異文化と交流するための基礎力を身につけましょう。	

科目名	国際関係論			コード	HI0002a			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	必修	2	1	前期				
担当者名	西脇 靖洋							
<b>授業概要</b>								
<p>国境を越えたモノ、カネ、ヒトの自由移動の進展に伴い、今日、世界の国々はますます相互に依存し合うようになっている。この授業では、国家や国際機関などの各政治主体が、国際紛争、貧困、環境破壊といった世界的な問題にどのように対応しているのかについて、国際関係論の理論をもとに考察する。</p> <p>【実務系科目】 在外公館職員としての勤務経験を持つ教員が、国際関係をテーマに授業を展開する。</p>								
<b>到達目標</b>			<b>成績評価の方法と基準</b>					
今日の国際社会の仕組みについて理解を深め、国際問題について理論的な視座から考察するために必要な能力を身につける。			リアクションペーパー：30点 小テスト（2回）：70点					
<b>学習目標</b>			<b>評価項目と割合</b>					
<b>具体的学習目標</b>	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 国際関係に関する重要知識を習得する	50%		35%				15%	
(2) 国際問題について理論的に考察する力を身につける	50%		35%				15%	
(3)								
(4)								
<b>授業の項目と内容</b>			<b>自主学習課題</b>					
<b>(1) 1. イントロダクション</b>								
この授業の概要を説明する			あらかじめシラバスに目を通しておく					
<b>(2) 2. 主権国家体制</b>								
主権国家を基本単位とした国際体制の形成過程について説明する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(3) 3. 国民国家</b>								
国民国家の概念が生み出され、拡散した経緯について説明する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(4) 4. 国際機関</b>								
国際機関等、国家以外の政治主体が国際社会において影響力を増大させている背景について説明する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(5) 5. グローバル・ガバナンス</b>								
グローバル・ガバナンスの概念とその発展の経緯について説明する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(6) 6. 国際関係の基礎理論1</b>								
国際関係論における主要理論について概説する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(7) 7. 国際関係の基礎理論2</b>								
国際関係論における主要理論について概説する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(8) 8. ディスカッション&amp;中間小テスト</b>								
前半の授業内容についてディスカッションを行ったのち、小テスト（論述）を実施する			ディスカッション、小テストに向け事前準備を行う					
<b>(9) 9. 安全保障</b>								
国際安全保障をめぐる問題について、事例をもとに説明する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(10) 10. 経済発展と国際協力</b>								
経済発展と国際協力をめぐる諸問題について、事例をもとに説明する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(11) 11. 文化</b>								
文化遺産の保護に関する協力等、文化をめぐる国際関係の現状について、事例をもとに説明する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(12) 12. 地球環境</b>								
地球環境の保護に向けた越境的な協力の現状について、事例をもとに説明する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(13) 13. 人の国際移動</b>								
人の国際移動をめぐる各国の対応について、事例をもとに説明する			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する					
<b>(14) 14. 国際社会と日本</b>								

現代国際社会において日本がどのような立場をとっているのかについて説明する	配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する
<b>(15) 15. ディスカッション&amp;学期末小テスト</b>	
後半の授業内容についてディスカッションを行ったのち、小テスト(論述)を実施する	ディスカッション、小テストに向け事前準備を行う
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
(参考書1) 山田高敬、大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論・新版』有斐閣、2011年 (参考書2) 吉川元、首藤もと子、六鹿茂夫、望月康恵編『グローバル・ガバナンス論』法律文化社、2014年	小テスト時のノートの持ち込みは不可です
<b>受講生へのメッセージ</b>	
楽しく、意義深い授業にする予定なので、皆さんも頑張りましょう	

科目名	Global Issues			コード	H003005a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	2	2	前期							
担当者名	西脇 靖洋										
<b>授業概要</b>											
<p>The course is designed for students who are beginners in international relations. I will focus on the concept of nation state and discuss how the nation states have transformed under the globalization. We will observe various regions such as Africa, America, Asia and Europe.</p> <p>Although the course will be taught in English, proficiency in English is not considered in evaluating students' achievement. The main purpose of this course is helping students to think about global issues in English on a daily basis.</p> <p>(この授業は初学者向けの国際関係論のコースである。国民国家の概念に焦点を当て、アフリカ、アジア、アメリカ、ヨーロッパなど、さまざまな地域の事例を考察する。授業は基本的に英語で行うが、英語の能力それ自体は成績評価の対象には含まない。この授業の最大の目的は、英語でグローバルな問題について考える習慣を身につけることにある。)</p> <p>【実務系科目】 在外公館職員としての勤務経験を持つ教員が、国際関係をテーマに英語で授業を展開する。</p>											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
Students will be able to understand basic international relations theories and think about world affairs in English.				Class participation: 50 points Final presentation: 50 points							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) Understand basic international relations theories				50	25			25			
(2) Acquire the habit of thinking about world affairs in English				50	25			25			
(3)											
(4)											
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1)</b> 1. Introduction (イントロダクション)											
Overview of this course				Review the class content							
<b>(2)</b> 2. Basic Theories of Nation State (国民国家の基礎理論)											
What is nation state and how was it constructed?				Review the class content							
<b>(3)</b> 3. Nation States and Globalization (国民国家とグローバル化)											
How has globalization affected nation states?				Review the class content							
<b>(4)</b> 4. National Identity and Regionalism (ナショナル・アイデンティティと地域主義)											
How has the regional integration give influenced nation states?				Review the class content							
<b>(5)</b> 5. Case Study: National Identity in Spain (事例：スペインにおけるナショナル・アイデンティティ)											
How has the Spanish national identity transformed in accordance with the development of the EU?				Review the class content							
<b>(6)</b> 6. Transnational Diffusion of Social Norms (トランスナショナルな社会規範の伝播)											
Why do some social norms diffuse from one nation state to another?				Review the class content							
<b>(7)</b> 7. Case Study: Diffusion of Citizenship in Brazil (事例：ブラジルにおける市民権の伝播)											
How has the concept of citizenship diffused from Europe to Brazil?				Review the class content							
<b>(8)</b> 6. International Migration and National Identity (人の国際移動とナショナル・アイデンティティ)											
What impacts do international migrations have on nation states?				Review the class content							
<b>(9)</b> 9. Case Study: Japanese Diaspora in the USA (事例：米国における日系移民)											
How has the identity of Japanese immigrants in the USA changed?				Review the class content							
<b>(10)</b> 10. Nation State and Empire (国民国家と帝国)											

What influence do empires have on nation states?	Review the class content
<b>(11)</b> 11. Case Study: Nation State Building in Angola (事例：アンゴラにおける国民国家建設)	
What problems have Angolan people been facing in building their nation state after the independence from the empire?	Review the class content
<b>(12)</b> 12. Resurgence of Nationalism (ナショナリズムの再興)	
Why has nationalism reoccured in some developed countries?	Review the class content
<b>(13)</b> 13. Case Study: Anti-Chinese Sentiment in Japan (事例：日本における反中感情)	
Why do some Japanese people manifest anti-Chinese sentiment today?	Review the class content
<b>(14)</b> 14. Final Presentation 1 (プレゼンテーション1)	
Student presentation on nation state	Prepare for the presentation
<b>(15)</b> 15. Final Presentation 2 (プレゼンテーション2)	
Student presentation on nation state	Prepare for the presentation
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
Handouts will be distributed in each class (授業中に資料を配布する)	A 10-minute presentation in English will be required (10分間の英語プレゼンテーションを最終課題とします)
<b>受講生へのメッセージ</b>	
Students who do not have a good command in English are welcomed (英語を苦手に行っている方も歓迎します)	

科目名	Introduction to Buddhism			コード	H003006a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	選択	2	2	後期							
担当者名	鈴木 隆泰										
<b>授業概要</b>											
<p>The purpose of this course is to provide students with a basic knowledge of Buddhism and Buddhist Culture. 英語を用いた講義。日本を含むアジアの広範囲に伝播した仏教を一つの大きな文化体系として捉えつつ、宗教というものの本質的理解を得させることを目標とする。仏教の真理観の根幹をなす〈諸行無常〉の正確な理解に立脚した上で、仏教文化の諸相を時代・地域ごとに解説する。特に、無明（盲目的自己中心性）に基づくサンスカーラ（潜在的〈自分〉形成作用）の発動と制御の解説に力点を置くことで、諸宗教間の排他性と宥和可能性を受講生に考えさせるとともに、自文化を形成してきた宗教的土壌についても理解を深める。</p> <p>【実務系科目】 住職経験のある教員が、仏教学の知見を踏まえ、仏教に関する基本的な知識を講義し、各自が属する社会の宗教文化や異文化の宗教の理解を促す授業を行う。</p>											
<b>到達目標</b>			<b>成績評価の方法と基準</b>								
From historical and cultural points of view, students will acquire some basic knowledge of Buddhist thinking and practices. 歴史的・文化的視点に基づき、仏教におけるものの考え方や実践に関する基礎知識を身につける。			Class participation 30% 授業態度・参画 30%  Term paper 70% 期末レポート 70%								
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) To comprehend the characteristics of Buddhism				100	30			70			
(2)											
(3)											
(4)											
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) Introduction</b>											
Introduction for students who may be not familiar with Buddhism				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(2) Śākyamuni Buddha (1)</b>											
The life of Śākyamuni Buddha, the founder of Buddhism				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(3) Śākyamuni Buddha (2)</b>											
Samskāra: one of the most fundamental and essential ideas for understanding Buddhism				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(4) Śākyamuni Buddha (3)</b>											
Samskāra as subconscious force or function which builds up the self				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(5) Śākyamuni Buddha (4)</b>											
Sho-gyō-mu-jō: the mutableness of samskāra				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(6) Śākyamuni Buddha (5)</b>											
Enlightenment of suffering people led by Śākyamuni Buddha				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(7) Indian Buddhism (1)</b>											
Indian Buddhism after Śākyamuni Buddha had entered into his perfect peacefulness (parinirvṛta)				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(8) Indian Buddhism (2)</b>											
Mahāyāna Buddhism (Great Vehicle) and Hīhayāna Buddhism (Expired or Rotten Teachings)				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(9) Indian Buddhism (3)</b>											
Mahāyāna Sūtra Literature (1)				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(10) Indian Buddhism (4)</b>											
Mahāyāna Sūtra Literature (2)				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(11) Japanese Buddhism (1)</b>											
From the introduction of Buddhism to the Heian period				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							
<b>(12) Japanese Buddhism (2)</b>											
New Buddhism in the Kamakura period (1)				Review the lesson well and prepare for the next lesson.							

<b>(13) Japanese Buddhism (3)</b>	
New Buddhism in the Kamakura period (2)	Review the lesson well and prepare for the next lesson.
<b>(14) Japanese Buddhism (4)</b>	
New Buddhism in the Kamakura period (3)	To attain a more comprehensive understanding of Buddhism
<b>(15) Term Paper</b>	
Submission of a term paper	To prepare an excellent paper
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
Texts or reference materials are to be handed out if necessary. 資料は必要に応じて配付します。	This class will be in English or in both English and Japanese. 授業は英語で行われるか、あるいは英語と日本語の双方を用いて行われます。
<b>受講生へのメッセージ</b>	Any term paper that hardly reflects the lessons is not to be accepted. 授業内容を反映していないレポートは受け付けられません。
Do enjoy studying Buddhism :-) 楽しんで仏教を学んでください :-) <a href="http://suzuki.ypu.jp/">http://suzuki.ypu.jp/</a>	This class is offered as 仏教文化論 (Bukkyō Bunka-ron) to those students who entered YPU before academic year 2015. 2014年度以前入学生には「仏教文化論」として開講されます。

科目名	国際経済論			コード	H003012a					
授業形態	履修形態	単位数	年次		開講期					
講義	選択	2	カリキュラムにより異なります。		後期					
担当者名	進藤 優子									
<b>授業概要</b>										
国際経済学の領域は、モノ・サービスの国際的な流れを扱ったり、カネの国際的な流れを扱ったり、経済成長や南北問題を扱ったりと広範囲にわたる。この授業では、モノ・サービスの国際的な流れを扱う「国際貿易論」に焦点を絞り、実態を捉え、理論的に説明し、問題解決のための政策を検討する。										
【実務系科目】 国際開発の実務経験を持つ教員が、自らの経験をもとに国際経済について講義を行う。										
<b>到達目標</b>			<b>成績評価の方法と基準</b>							
経済学の基本的な理論を習得し、日本や他の国々における国際経済に関する様々な現象を理解する力を養う。			授業態度と期末試験で行う。							
<b>学習目標</b>			<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>			配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 経済学の基本的な理論を説明できる。			65	15				50		
(2) 国際経済に関する様々な現象を理解し、自分自身の意見を持つ。			35	15				20		
(3)										
(4)										
<b>授業の項目と内容</b>			<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 国際経済学とは</b>										
国際経済学とは、国際貿易は特別な経済活動か			身近な国際貿易について考えてみよう。							
<b>(2) 第1章 比較優位(1)</b>										
比較優位と分業の利益			比較優位と絶対優位の違いを理解しよう。							
<b>(3) 第1章 比較優位(2)</b>										
比較優位と国際貿易			貿易利益は「交換の利益」と「特化の利益」に基づくものであることを理解しよう。							
<b>(4) 第2章 部分均衡分析(1)</b>										
貿易利益			基本的な分析ツールを用いて、貿易パターンがどうなるのか、貿易の利益はどのようなものか調べよう。							
<b>(5) 第2章 部分均衡分析(2)</b>										
比較優位の決定要因			比較優位の決定要因について理解しよう。							
<b>(6) 第3章 産業内貿易と規模の経済</b>										
産業間貿易と産業内貿易、規模の経済、製品差別化とフラグメンテーション			経済構造が似たような国の間で似た財の貿易が盛んである理由を理解しよう。							
<b>(7) 第4章 貿易政策 基礎(1)</b>										
関税・輸入割当の効果			伝統的な政策である関税と輸入割り当ての効果进行分析しよう。							
<b>(8) 第4章 貿易政策 基礎(2)</b>										
保護貿易を擁護する主張			国際市場において少数の企業のみが競争している状況における貿易政策を検討しよう。							
<b>(9) 第5章 貿易政策 応用I</b>										
戦略的貿易政策			国際市場において少数の企業のみが競争している状況における貿易政策を検討しよう。							
<b>(10) 第6章 貿易政策 応用II</b>										
アンチダンピングとセーフガード、アンチダンピングとセーフガードの経済学			最近乱用が問題となっている「アンチダンピング」措置と「セーフガード」措置について考察しよう。							
<b>(11) 第8章 国際貿易のルールと貿易交渉——GATTとWTO</b>										
GATTとWTOの歴史と現状、GATTとWTOの制度			国際貿易の制度を理解しよう。							
<b>(12) 第9章 サービス貿易とIT</b>										
サービス貿易の定義と現状、ITと貿易			サービス貿易と財貿易の違いを理解しよう。							
<b>(13) 第10章 地域貿易協定——FTAとCU</b>										
地域貿易協定の現状と制度、地域貿易協定の経済学			最近マスコミをにぎわせている地域貿易協定について経済モデルを用いて考察しよう。							
<b>(14) 第11章 国際要素移動</b>										

多国籍企業と直接投資、労働の国際移動と外国人の受け入れ問題	生産要素である資本や労働の国際間移動について理解しよう。
<b>(15) まとめと復習</b>	
今まで学習したことの総括	今まで学習したことを総復習しよう。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
教科書：石川城太・菊池徹・椋寛(2013)『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣、¥2,200+税 参考書：竹内信仁・柳原光芳編(2013)『スタンダードマクロ経済学』、竹内信仁・森田雄一編(2013)『スタンダードミクロ経済学』中央経済社 教材：毎回書き込み式講義ノートを配布する。	経済学を履修していることが望ましい。 期末試験は講義内容の理解度、論理性、意見のユニークさで評価する。
<b>受講生へのメッセージ</b>	
1つ1つの授業の積み重ねが大切です。積極的な授業への参加を期待しています。	

科目名	NGO・NPO論			コード	H003014a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	選択	2	2	前期							
担当者名	吉本 秀子、進藤 優子										
<b>授業概要</b>											
グローバル市民社会において今、NGO・NPOの重要性が増してきている。本講義では、NGO（非政府組織）・NPO（非営利組織）とは何かを学ぶ。また、NGO・NPOの海外における事例と、日本国内、山口県における事例をみることで、NGO・NPOの現状と役割を考える。NGO・NPOは政府・企業・大学などと、いかにパートナーシップを結んでいくべきかを考える。											
【実務系科目】 地域で活躍するNPO実務家をゲストスピーカーとして招き、学生とのディスカッションを通して地域における大学とNPOの役割について考える授業を行う。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
国際社会で、日本で、そして山口県で、NGO・NPOはどのような役割を果たしているかを学ぶことで、国際的な教養や行動力を養成する。				①授業態度および参加15%②自主的参加態度15%③プレゼンテーション35%④レポート35%							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) NGO・NPOに関する基礎的知識を身につける。				30	15		15				
(2) NGO・NPOの役割と自分自身を関連づけて考えられる。				20				10	10		
(3) NGO・NPOについて自分の言葉で語ることができる。				25					25		
(4) NGO・NPOについてレポートが書ける。				25				25			
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 1) コース紹介 (吉本)</b>											
授業の目的を説明し、授業をどのように進めていくかを説明する。地域のNPOの事例を紹介し、NGO/NPOについて学ぶ意義を考える。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの「序章」を読んでくる。</li> <li>・NGO・NPOについての疑問点・講師への質問をまとめて紙に書き出してみよう。</li> </ul>							
<b>(2) 2) NPO (非営利組織) とは何か(吉本)</b>											
なぜ今、企業などの営利組織だけでなく、NPO (非営利組織)が必要とされるのか。NPOの定義を紹介するとともに、その社会的役割について考える。				テキストの第1章 (前半) を読んでくる。							
<b>(3) 3) NPOの歴史と成り立ち (吉本)</b>											
前回の講義に続いて、NPOとは何かをその歴史と成立過程を学ぶことで理解する。				テキスト第1章の後半を読んでくる。							
<b>(4) 4) 行政とNPOとパートナーシップ</b>											
NPOは行政とどのような関係にあるのかを理解する。山口県におけるNGO・NPOはどうスタートし、今、どうなっているか。その中で、山口県における県民活動支援センターなどの中間支援組織の役割についても理解する。				テキストの第4章を読んでくる。							
<b>(5) 5) 企業とNPOのパートナーシップ (吉本)</b>											
企業とNPOとの関わりについて考える。				テキスト第5章を読んでくる。							
<b>(6) 6) 企業の社会的責任とソーシャルビジネス (吉本)</b>											
ソーシャルビジネスとは何か。企業の社会的責任 (CSR) とは何か。それぞれの事例を紹介し、社会的企業の役割を考える。社会的企業とは何か、社会的起業家とはどのような人をさすのかについて学ぶ。				テキスト第6章を読んでくる。							
<b>(7) 7) アメリカのNPO (吉本)</b>											
NPO先進国といわれるアメリカで、NPOはどんな役割を担っているのか。事例とともに紹介する。				アメリカの事例と日本の事例を比較し、どのような共通点があるか、どのような相違点があるか、学べることは何か、書き出してみよう。							
<b>(8) 8) 前半のまとめ・学生による中間発表会</b>											
前半のまとめとして、学生による中間発表会を行う。				中間レポート、中間発表を準備する。自分の言葉でNGO・NPOを語ってみよう。レポートを作成し、短いプレゼンテーションの準備をしよう。							
<b>(9) 9)NPOはなぜ求められるのか (進藤)</b>											
さまざまな理論に基づきNPOの存在理由を考える。				テキスト第2章を読んでくる。							
<b>(10) 10)NPOの法制度(進藤)</b>											
NPOの法人制度を学び、税制および寄付について理解する。				テキスト第3章を読んでくる。							
<b>(11) 11)NPOのマネジメント(進藤)</b>											
NPOのマネジメントの基本を理解する。				テキスト第7章を読んでくる。							

<b>(12)</b> 12)NPOの資金調達 (進藤)	
NPOの資金調達の方法と課題を学ぶ。	テキスト第8章を読んでくる。
<b>(13)</b> 13)NPOをつくる (進藤)	
自分が解決したい、解決すべきだと思う社会問題を考える。	テキスト第9章を読んでくる。
<b>(14)</b> 14)後半発表会 (進藤)	
自分がつくったNPOをPRする。	事業計画を作成し、会員を集めるためのPRを行う準備をしよう。
<b>(15)</b> 15) 地域と大学とNGO・NPO	
地域に出て、自分自身が参加できるNGO・NPO活動を探してみる。地域の人たちとどう連携できるか考える。	地域のNGO・NPOを訪ね、自分にできることから始めてみよう。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
テキスト：沢村明ほか著『はじめてのNPO論』（有斐閣ストゥディア、2017年）、授業開始までに準備しておいてください。	地域志向科目
<b>受講生へのメッセージ</b>	
NGO・NPO論は講義科目ですが、ここで学んだ知識を土台にして「フィールドワーク実践論」「地域実習」などの具体的な活動につなげていってほしいと思っています。同時受講をおすすめします。	

科目名	欧米外交史			コード	H005201a				
授業形態	履修形態	単位数	年次		開講期				
講義	選択	2	カリキュラムにより異なります。		前期				
担当者名	西脇 靖洋								
<b>授業概要</b>									
この授業では、欧州の政治外交史について理解を深める。特にスペイン、ポルトガルという南欧2カ国に焦点を当て、これらの国々の歴史について概観したのち、20世紀後半以降の政治、経済、社会について考察する									
【実務系科目】 在外公館職員として欧州での勤務経験を持つ教員が、自らの経験に基づいて国際関係史について授業を展開する。									
<b>到達目標</b>			<b>成績評価の方法と基準</b>						
欧米諸国の政治外交史に関する基本知識を習得し、現代社会の諸問題について、国際関係論の視点から研究するための土台を固める			リアクションペーパー：40点 小テスト：60点						
<b>学習目標</b>			<b>評価項目と割合</b>						
<b>具体的学習目標</b>		配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 欧米諸国の歴史に関する基礎的知識を習得する		50%		30%					20%
(2) 現代社会の諸問題について、国際関係論の専門的な視点から洞察する力を身につける		50%		30%					20%
(3)									
(4)									
<b>授業の項目と内容</b>			<b>自主学習課題</b>						
<b>(1) イントロダクション</b>									
本講義の概要を説明する			あらかじめシラバスに目を通しておく						
<b>(2) ポルトガル建国</b>									
ポルトガル王国の建国を中心とした11～12世紀の欧州政治外交史について理解を深める			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する						
<b>(3) スペイン成立</b>									
スペインの成立を中心とした13～15世紀の欧州政治外交史について理解を深める			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する						
<b>(4) 海外進出</b>									
大航海時代を切り開いたポルトガル、スペインを中心に、15～16世紀の欧州の政治外交史について理解を深める			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する						
<b>(5) 衰退</b>									
スペイン、ポルトガル両国の衰退を中心とした16～18世紀の欧州政治外交史について理解を深める			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する						
<b>(6) ラ米諸国の独立</b>									
ラ米諸国の独立を中心とした18～19世紀の欧米政治外交史について理解を深める			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する						
<b>(7) 共和制導入</b>									
スペイン、ポルトガルにおいて共和制が導入された19世紀後半～20世紀前半の欧州の政治外交史について理解を深める			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する						
<b>(8) 小テスト&amp;ディスカッション</b>									
前半の授業内容について議論したのち、小テスト（論述）を実施する			ディスカッション、試験に向け事前準備を行う						
<b>(9) 独裁体制確立</b>									
スペイン、ポルトガルにおいて独裁体制が確立した1930年代～1940年代の欧州政治外交史について理解を深める			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する						
<b>(10) 国際的孤立</b>									
スペイン、ポルトガルが国際的孤立を深めた1950年代～1960年代の欧州政治外交史について理解を深める			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する						
<b>(11) 民主化</b>									
スペイン、ポルトガルにおいて民主主義体制への移行と定着が見られた1970年代～1980年代の欧州政治外交史について理解を深める			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する						
<b>(12) 欧州化</b>									
スペイン、ポルトガルの事例を中心に、現在における欧州統合			配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する						

と加盟国の関係について理解を深める	る
<b>(13) 旧植民地諸国との関係</b>	
スペイン、ポルトガルの事例を中心に今日における欧州の旧宗主国と旧植民地諸国の関係について理解を深める	配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する
<b>(14) 人の国際移動</b>	
スペイン、ポルトガルの事例を中心に、欧州諸国の移民政策について理解を深める	配布資料および参考書の関連部分をもとに授業内容を復習する
<b>(15) 小テスト&amp;ディスカッション</b>	
後半の授業内容について議論したのち、小テスト（論述）を実施する	ディスカッション、試験に向け事前準備を行う
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
(参考書1) J・アロステギ・サンチェス、M・ガルシア・セバスティアンほか『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』(明石書店、2014年)。 (参考書2) 金七紀男『ポルトガル史』(彩流社、2010年)。	
<b>受講生へのメッセージ</b>	
欧米諸国の政治外交史を楽しく学び、歴史や国際関係についての知見を深めましょう	

## 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（山口県立大学）

### 国際文化学部 文化創造学科

2019年度：合計79単位（全学教育25単位）（学部共通8単位）

省令で定める単位数等の基準数相当分（以下14単位分）

科目名	単位数	授業内容
文化創造論	2	現役ファッションデザイナーを講師として招聘。デザイナーとしての実務経験をもとに、国内外のデザインを通じた文化創造のあり方や価値について講義を行う。
デザイン文化論	2	日用品・工芸品におけるプロダクトデザイン、マーケティングの実務経験を持つ教員が、デザイン全般についての講義を行う。
企画・創造論	2	チラシ・パンフレットなどのグラフィックデザインやそれらに関わる企画の実務経験を持つ教員が、課題制作を通じて社会に必要な基礎的な知識やスキル等の修得について講義を行う。
工芸制作論	2	プロダクトデザイナーとしての実績を持つ教員に加え、地域で活躍する陶芸や伝統工芸の関係者、博物館学芸員を非常勤講師やゲストスピーカーとして迎え、今日の工芸の意義や特質について講義を行う。
写真概論	2	写真の撮影制作に関する実務経験を持つ教員が、写真に係る基礎的な知識や技術等の修得について講義を行う。
CG実習	2	チラシ・パンフレットなどのグラフィックデザインや、それらに関わる企画の実務経験を持つ教員が、グラフィックデザインの技術を教える実習を行う。
文化創造ワークショップ	2	第5回目：中原中也記念館に勤務する講師を招聘し、現役の学芸員の実務経験をもとに文学に関わる展示方法について講義を行う。 第11回目：山口県観光連盟に勤務する講師を招聘し、現役の観光プロモーションの実務経験をもとに地域アイデンティティ形成について講義を行う。 第14回目：プロダクトデザイン事務所を主宰する講師を招聘し、現役のブランディングの実務経験をもとに付加価値創出サービスについて講義を行う。

科目名	文化創造論			コード	I002001a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	2	1	前期							
担当者名	水谷 由美子										
<b>授業概要</b>											
<p>地域の特性を尊重した新しい地域文化や生活文化の創造に必要なトピックやテーマをとりあげることで、日本文化領域とデザイン創造領域の双方を学ぼうとする関心を持たせ、みずからの文化や芸術そして地域文化についての知識を深めさせ、対話と協調に基づいたパートナーシップを尊重する態度を養うことを目指す。</p> <p>【実務系科目】 現役ファッションデザイナーを講師として招聘。デザイナーとしての実務経験をもとに、国内外のデザインを通じた文化創造のあり方や価値について講義を行う。</p>											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
文化創造学科における諸領域の理解をした上で、地域文化に関する興味関心が動機づけられる。また、文化創造に関するリサーチにより、個人の洞察から行動、そして創造と発信に関する方法について理解し、自らのテーマを見つけて、どのように社会的な行動に移していけるかなどを考える力をつける。				授業の意図する内容についての理解、行動することの価値や社会的な発信などの重要性についての理解、授業への積極的な参加							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 文化創造学科における学習目的、方法、分野への理解				25				25			
(2) 地域文化および具体的なトピックやテーマに関する理解				30				30			
(3) 文化創造に関するリサーチ、行動、創造、発信に関する動機付けがされた				30				30			
(4) 授業への参加意欲				15	15						
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 文化創造論とは？</b>											
文化創造論では、国際的な視点に立って、地域の文化の再発見、創造、発信に関する考え方、方法、実践について学習する。そこに文化創造を通して社会的な価値、地域活性化の可能性などのついて理解する。				自らの文化創造に関する興味、関心についてノートに箇条書きしておく。							
<b>(2) 日本文化に関する学習の動機付けを行う。</b>											
国内外における国際化の時代にあり、文化創造に関する学習の前提として、まずは日本文化への理解をする重要性について学ぶ。				自分が興味をもつ日本文化の領域、あるいは対象などについて調べ、ノートを取り、その理由を明らかにしておく。							
<b>(3) 地域文化に関する学習の動機付けを行う。</b>											
山口における地域文化の紹介と地域文化の活性化に向けた取り組みなどを紹介する。また、地域の方の声を聞き、地域の課題を知る。				山口の地域文化について興味をもつ対象について、調べてノートをとっておく。またその理由を明らかにしておく。							
<b>(4) 地域文化の実見 1</b>											
山口市内の文化・芸術施設の紹介と見学。				山口市内にある文化施設を1つ調べてその特徴をノートする。							
<b>(5) 地域文化の実見 2</b>											
地域の商工業施設の見学。				山口市内の商店街や企業などの特徴を調べる。							
<b>(6) 地域文化の実見 3</b>											
山口市内の商店街、温泉街、工場などの見学。				山口の商店街、温泉街、工場などの中で、興味をもつものについて調べノートをとる。							
<b>(7) デザイン創造に関する動機付けを行う。</b>											
地域文化および生活文化における課題解決にデザイン力がどのように役立てられるかについて理解する。				日頃、各自が考える地域や生活における課題について、3つ上げてノートを取り、どのようにしたら解決できるかについて考えてみる。							
<b>(8) 地域文化を発信するデザインの紹介 1</b>											
地域文化を資源とするデザインおよびデザイナーについて紹介する。				世界において各自が興味をもつデザインあるいはデザイナーについて調べ、ノートを取り、どこに興味をもつかの理由について明らかにしておく。							
<b>(9) 地域文化を発信するデザインの紹介 2</b>											
地域資源を活かした商品開発デザインについて、地域との関わりおよびその商品について紹介する。				地域における商品開発について調べ、その魅力をノートする。							
<b>(10) 地域文化を発信するデザインの紹介 3</b>											
地域で活躍するデザイナーおよびデザイン活動について紹介し、その表現の可能性や社会的な意義について理解する。				地域で活躍するデザイナーについて調べてノートする。							
<b>(11) 文化創造におけるサステナビリティ 1</b>											

日本の生活文化やデザインの諸相にみられるサステナビリティの表現や思想について理解する。	サステナビリティとは何か、文化創造における重要性について調べてノートする。
<b>(12) 文化創造におけるサステナビリティ 2</b>	
フィンランドデザインにおけるサステナビリティを理解する。	フィンランドについて興味をもつ視点から特徴を調べ、ノートする。
<b>(13) 日本文化と異国の文化の出会い、融合、創造 1 ジャポニスム①</b>	
19世紀後期に形成されたジャポニスム・ムーブメントが創造した生活文化や芸術文化の形式、内容そして意義について理解する。	万国博覧会の歴史を調べてノートをとる。
<b>(14) 日本文化と異国の文化の出会い、融合、創造 2 ジャポニスム②</b>	
20世紀に起きた第2のジャポニスム・ムーブメントについて、服飾デザインの分野から理解する。	世界で活躍するファッションデザイナーとそのブランドの特徴を調べ、その独創性がどこにあるかについて考える。
<b>(15) まとめ</b>	
文化創造のための日本文化、地域文化の再発見、創造、発信の方法、それを支える概念としてのサステナビリティの思想、新しいアプローチ法などについて理解する。	今迄の授業の中で、特に興味をもった部分について、さらに深く調べてノートを取る。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
適宜授業中に紹介する。	授業の準備を課されたことについて、ノートを作成し、参考文献、参考URLを記入する週間をつける。参考資料などはファイルノートに入れて整理する。見学などで撮影した資料はデーターとして整理し、必要なものはレポートに貼付ける。最後にノートをチェックする。
<b>受講生へのメッセージ</b>	研究創作両面から、研究倫理について学習する。
文化創造の行動的担い手になるための第1歩としての授業となります。授業を通じて、創造のエネルギーが生まれること、あるいは強くなることを祈っています。自主的に学習することを期待します。	

科目名	デザイン文化論			コード	I002004a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	選択	2	1	後期							
担当者名	山口 光										
<b>授業概要</b>											
デザインの文化的役割を理解させるために、暮らしの中のデザインの意義や理念について講義し、近代から現代にいたるデザインの歴史的展開をたどり、デザインが生活を豊かにしている具体的な事例を紹介することで、みずからの文化や芸術そして地域文化についての知識を深め、地域コミュニティで対話と協調に基づいたパートナーシップを尊重する態度を養うことを目指す。											
【実務系科目】 日用品・工芸品におけるプロダクトデザイン、マーケティングの実務経験を持つ教員が、デザイン全般についての講義を行う。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
デザインの文化的役割を理解することで、文化や芸術、デザインに対する知識を深め、相対的に評価することができる。				授業態度とテストで評価する。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) デザインを体系的に理解する。				30	12					18	
(2) 社会とデザインとの関係性を知る。				30	12					18	
(3) 伝統文化とデザインとの関係性を知る。				20	8					12	
(4) デザイン的発想方法を確立する。				20	8					12	
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) ガイダンス/デザインとは</b>											
グラフィック・プロダクト・環境などの分類から各々の概略説明まで。				デザインの分類をまとめる。							
<b>(2) 商業とデザイン (1)</b>											
デザインと市場との関連性を考察し、市場原理やマーケティングについて検証する。				自分(デザイナー・企画者)と他人における価値観の違いを考える。							
<b>(3) 商業とデザイン (2)</b>											
西洋の伝統産業とブランドについて。				海外における歴史とデザインとの関わりを考える。							
<b>(4) 発想方法 (1)</b>											
コンセプト構築方法(5W1H)やブレインストーミング、イメージスケールなどの発想方法を知る。				自分の発想を客観化する方法をまとめる。							
<b>(5) 発想方法 (2)</b>											
前回発想方法の実践による体得。				自分の発想を客観化する方法をまとめる。							
<b>(6) テクノロジーとデザイン</b>											
構造や工程がデザインに及ぼす影響や、コンピューターの出現などテクノロジーと変革との関連性を考察する。				技術とデザインとの関わりを考える。							
<b>(7) 環境とデザイン</b>											
美術を歴史的に理解する上で重要な「印象派からキュビズムまでの流れ」を学ぶ。				美術の歴史を「流れ」として考えてみる。							
<b>(8) 福祉とデザイン</b>											
ユニバーサルデザインなどの「人にやさしいデザイン」のあり方を考える。				技術とデザインとの関わりを考える。							
<b>(9) 環境とデザイン</b>											
エコロジカルデザインなどの「人にやさしいデザイン」のあり方を考える。				人とデザインとの関わりを考える。							
<b>(10) 福祉とデザイン</b>											
ユニバーサルデザインなどの「人にやさしいデザイン」のあり方を考える。				人とデザインとの関わりを考える。							
<b>(11) デザインと実験</b>											
理論と経験・バーチャルと実体験などの差を知り、実践と理論それぞれの意義を考える。				世界史とデザインとの関わりを考える。							
<b>(12) 大雑把・美術史1 ルネッサンス</b>											
美術を歴史的に理解する上で重要な「ルネッサンス」について学ぶ。				美術の歴史を「流れ」として考えてみる。							
<b>(13) 大雑把・美術史2 印象派からキュビズムまで</b>											
美術を歴史的に理解する上で重要な「印象派からキュビズムまでの流れ」を学ぶ。				美術の歴史を「流れ」として考えてみる。							

<b>(14) 地域文化とデザイン</b>	
伝統産業における「用の美」を知る（漆器、陶器、木工等を題材とする）。	伝統産業とデザインとの関わりを考える。
<b>(15) デザインの動向</b>	
近年のデザイン動向などを提示し、各自のデザイン的な方向性を考える際の参考資料とする。	リアルタイムの「デザイン」を知り、自分のデザイン・企画との関連性を考える。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
特になし。	
<b>受講生へのメッセージ</b>	
理論と発想方法は、デザインの方向性を決める重要な役割を果たします。頑張って覚えて下さい。	

科目名	企画・創造論			コード	I003005a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	選択	2	2	前期							
担当者名	小橋 圭介										
<b>授業概要</b>											
文化創造学科における学びの基礎として、発想、イメージの視覚化の重要性を理解させ、芸術、デザインにおける「想像/創造」のプロセスを通して、企画の考え方を修得させ、みずからの着想を発信するための基礎的な態度と創造する力を身につけさせることを目指す。											
【実務系科目】 チラシ・パンフレットなどのグラフィックデザインやそれらに関わる企画の実務経験を持つ教員が、課題制作を通じて社会に必要な基礎的な知識やスキル等の修得について講義を行う。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
「そうぞう」力、企画力はあらゆる場面で必要とされています。ここでは「そうぞう」するプロセスを理解しながら、デザイン思考力を修得する。				下記の欄を参照のこと。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 創造行為を理解する。				30	10			20			
(2) 企画のプロセスを理解する。				30	10					20	
(3) 「新しいこと」が「そうぞう」できるようになる。				40				20		20	
(4)											
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 「そうぞう」とは</b>											
想像と創造について。授業全体の流れを説明する。				想像と創造の違いについて考えてみる。							
<b>(2) イマジネーションの磨き方</b>											
新しい企画を提案する方法について、事例を紹介しながら説明する。				新しく発見したことについて考えてみる。							
<b>(3) 「つたえる」とは</b>											
広告やブランディングなど、事例を紹介しながら説明する。				「伝達手段」にどのようなものがあるか考えてみる。							
<b>(4) イメージの視覚化 (1)</b>											
サインやピクトグラムなど、情報デザインについて事例を紹介しながら説明する。				頭に描いた「もの」を描いてみる。							
<b>(5) イメージの視覚化 (2)</b>											
企画の構成・プレゼンテーションの重要性について事例を紹介しながら説明する。				与えられたテーマに沿ってアイデアを出す。							
<b>(6) 現在・過去・未来からの分析</b>											
「そうぞう力」のトレーニング方法や企画の考え方など、事例を紹介しながら説明する。				身近にある商品がどのようなコンセプトで商品化されているかを自分なりに考えてみる。							
<b>(7) 情報の価値 (1)</b>											
問題解決のためには、あらゆる情報を収集することが求められる。				問題に関する情報を集めてみる。							
<b>(8) 情報の価値 (2)</b>											
著作権について、事例を紹介しながら説明する。				情報を整理する。							
<b>(9) 「しる」ことの重要性</b>											
「しる」こと、「しらない」ことを認識する重要性について考察する。				問題点を解決するための方法を考える。							
<b>(10) 「よりそう」を考える</b>											
ユニバーサル、サステナビリティ等、自然や人に適合したデザインについて考察する。				「よりそう」から連想するキーワードについて考えてみる。							
<b>(11) 「そうぞう」の拡大 (1)</b>											
テクノロジーは身体の延長であることを、事例を紹介しながら説明する。				組み合わせによる「創造」を視覚化（スケッチ）してみる。							
<b>(12) 「そうぞう」の拡大 (2)</b>											
技術革新がデザインにどのような影響を及ぼしたのか考察する。				身の回りのデザインされたものがどのような考えで作られているかを調べてみる。							
<b>(13) あそびにひそむ「そうぞう」</b>											
マンガやアニメーション等、サブカルチャーを軸にデザインの				どのような「あそび」があるのか調べてみる。							

拡がりを知覚する。	
<b>(14)</b> 「感じる」を考える	
オートポイエーシス、アフォーダンス等、デザインの中に潜む無意識の行動について考察する。	「無意識」を「意識」してみる。
<b>(15)</b> まとめ	
表現の多様性、それに伴うポータレス化を提示し、各自のデザイン的な方向性を考える際の参考資料にする。	改めて、「そうぞう」について考えてみる。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
特に使用しない。	授業内で個人プレゼンテーションを行うことがあります。
<b>受講生へのメッセージ</b>	
この授業は、創作領域に限らず必要とされる能力です。「イメージすること」、「見える化すること」の重要性を体感してください。	

科目名	工芸制作論			コード	I005106a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	選択	2	2	後期							
担当者名	松尾 量子、山口 光、大和 猛、後藤 修										
<b>授業概要</b> 陶芸、漆芸、染織、金工、木工などの工芸について、歴史的な展開と共に現代における工芸の意義や特質、制作技法を講義することによって、工芸制作についての知識や技術について理解を深め、専門的な学びの中で発展的な創造に取り組む能力を養う。 【実務系科目】 プロダクトデザイナーとしての実績を持つ教員に加え、地域で活躍する陶芸や伝統工芸の関係者、博物館学芸員を非常勤講師やゲストスピーカーとして迎え、今日の工芸の意義や特質について講義を行う。											
<b>到達目標</b> 工芸についての基本的な知識や技術についての知識をもち、現代における工芸の意義や特質を理解することで、伝統的な価値を再発見し、未来に資する価値の創造の意義を理解する。				<b>成績評価の方法と基準</b> 下記を参照してください。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 工芸についての基本的な知識と技術を理解している。				50	10		10	30			
(2) 現代における工芸の意義や特質を理解している				30			10	20			
(3) 伝統的な価値の再発見や未来に資する価値の創造についての意義を理解している。				20			10	10			
(4)											
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 1 オリエンテーション (松尾量子)</b>											
授業の概要、進め方について説明すると共に、工芸を学ぶことの意義について講義する。				工芸を学ぶ意義について理解する。							
<b>(2) 2. 陶器のはじまり (大和猛)</b>											
近世から現在までの陶芸制作について述べる。				陶器の歴史と過去と現在の器の使い方の違いを理解する。							
<b>(3) 伝統工芸と現在の陶器 (大和猛)</b>											
伝統工芸としての萩焼と現在の陶器制作について述べる。				実用的な陶器と芸術的な陶器の違い、科学技術の進化と共に制作方法も大きく変化した事を理解する。							
<b>(4) 学外授業 (大和猛)</b>											
保男窯を訪問する。				実際の目で見て今まで学んできた事を復習する。							
<b>(5) 5. 学外見学</b>											
授業時間を変更して、学外見学を行います。				学外見学に関する情報をしらべておく。							
<b>(6) 6. 学外見学</b>											
授業時間を変更して、学外見学を行います。				学外見学に関する情報をしらべておく。							
<b>(7) 7. 陶芸の制作原理—素材、技術、工程 (後藤修)</b>											
土づくり、成形、装飾、焼成といった陶芸における素材への対応、技術改良、制作工程について、近代以前の陶芸作品をとおして学ぶ。				萩焼の伝統的な制作工程について調べる。							
<b>(8) 8. 陶芸表現と制作技法—造形表現としてのうつわ (後藤修)</b>											
近代以降の個人作家の陶芸作品から、自己表現としての陶芸制作とその造形思考を論じる。				陶芸の分野で最初に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された富本憲吉、石黒宗麿、濱田庄司、荒川豊藏の中から1名を選び、その経歴について調べまとめる。							
<b>(9) 現代の陶芸制作—現代の茶陶からオブジェ陶まで (後藤修)</b>											
戦後以降の日本の陶芸作品から、現代の陶芸作品における表現の可能性について考察する。				現代の陶芸作家の個展や展覧会を見学し、その感想をまとめる。							
<b>(10) 10. クラフトデザイン 大内塗</b>											
ゲストスピーカー中村理恵氏を迎え、大内塗の伝統と今日の市場を意識した展開についての紹介を受け、クラフトデザインについての理解を深める。				大内塗について資料をまとめておく。							
<b>(11) 11. クラフトデザイン (山口光)</b>											
クラフトデザインについて概説する。				クラフトデザインについて調べておく。							
<b>(12) 12. クラフトデザイン (山口光)</b>											
クラフトデザインについて概説する。				クラフトデザインについて調べておく。							
<b>(13) 13. 染織工芸 (松尾量子)</b>											

染織工芸について概説する。	染織工芸について調べる。
<b>(14)</b> 14. 染織 (松尾量子)	
染織工芸について概説する。	山口の伝統染織品について調べる。
<b>(15)</b> 15. まとめ (松尾量子)	
授業のまとめを行いレポートを作成する。	授業のノートや資料を整理しておく。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
適宜資料を配付する。	講師による課題(レポート等)と最終回に作成するまとめレポートにより総合的に評価する。
<b>受講生へのメッセージ</b>	
オムニバス形式で授業を行います。初回授業時に詳しい日程等を伝えますが、学外見学等については、授業時間を変更して行います。	

科目名	写真概論			コード	I005108a						
授業形態	履修形態	単位数	年次		開講期						
講義	選択	2	2		前期						
担当者名	倉田 研治										
<b>授業概要</b>											
写真を表現・伝達の手段として活用するための基礎的な知識と技術について概説し、アナログとデジタルの比較を通して、それぞれのメディア特性を理解させ、みずからの着想を発信するための基礎的な知識と技術を身につけさせることを目指す。											
【実務系科目】 写真の撮影制作に関する実務経験を持つ教員が、写真に係る基礎的な知識や技術等の修得について講義を行う。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
1) 写真史の変遷を理解する。2) 写真表現の技術的スキルを習得する。3) メディアの持つ特性を理解し、表現方法として習得する。				課題提出、制作発表による総合評価。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 写真史、写真表現を理解する。				30	10	0	0	0	0	0	20
(2) 写真表現の技術的スキルを習得する。				30	10	0	0	0	0	0	20
(3) メディアの持つ特性を理解し、表現方法として習得する。				40	10	0	0	0	0	0	30
(4)											
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) ガイダンス</b>											
写真表現の変容、現在どのように利用されているかを理解する。課題のテーマ、制作方法を説明する。				身近にある写真へ、意識的にまなざしを向ける。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(2) 写真表現の基礎1 写真史</b>											
カメラオプスクラ～銀塩写真について理解する。				身近にある写真へ、意識的にまなざしを向ける。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(3) 写真表現の基礎2 写真史</b>											
銀塩写真～デジタル写真について理解する。				身近にある写真へ、意識的にまなざしを向ける。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(4) 写真表現の基礎3 写真史</b>											
記録メディアの変容、作家、作品について理解する。				身近にある写真へ、意識的にまなざしを向ける。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(5) 写真表現の基礎4 撮影</b>											
カメラの使い方、機能などを理解する。				身近にある写真へ、意識的にまなざしを向ける。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(6) 写真表現の基礎5 撮影</b>											
光源、ライティングなどを理解する。				身近にある写真へ、意識的にまなざしを向ける。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(7) 写真表現の基礎6 制作</b>											
テーマに沿った、作品の制作を行う。				身近にある写真へ、意識的にまなざしを向ける。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(8) 写真表現の基礎7 合評</b>											
課題のプレゼンテーションおよび講評。				作品を通じて、表現・伝達が成立しているかを考察する。							
<b>(9) 写真表現の応用1 概要説明</b>											
各自のテーマを設定し、撮影・制作計画を企画立案する。				身近な物事を、意識的に観察する。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(10) 写真表現の応用2 Web</b>											
Web上の写真表現について理解する。				身近な物事を、意識的に観察する。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(11) 写真表現の応用3 GIS</b>											
GIS（地理情報システム）と写真表現について理解する。				身近な物事を、意識的に観察する。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(12) 写真表現の応用4 制作</b>											
各自のテーマに沿い、作品の制作を行う。				身近な物事を、意識的に観察する。テーマに沿った撮影を行う。							
<b>(13) 写真表現の応用5 制作</b>											
企画内容の検証、修正を行いながら、作品を仕上げる。				身近な物事を、意識的に観察する。テーマに沿った撮影を行う。							

	う。
<b>(14) 写真表現の応用6 合評</b>	
プレゼンテーションおよび講評。	作品を通じて、表現・伝達が成立しているかを考察する。
<b>(15) 写真表現の応用7 合評2</b>	
プレゼンテーションおよび講評。	作品を通じて、表現・伝達が成立しているかを考察する。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
<b>受講生へのメッセージ</b>	
写真メディアの持つ歴史、特性を理解することにより、表現意識が広がります。多くの写真と発見が捉えられることを期待します。	

科目名	CG実習			コード	I005110a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
実習	選択	2	2	後期							
担当者名	小橋 圭介										
<b>授業概要</b>											
デザイン表現や高度なプレゼンテーションにおいて、用いられるCGソフトウェア機能と操作方法を理解させ、アイデアを視覚化するための実習を通して、みずからの着想を発信するための基礎的な知識と技術を身につけさせることを目指す。											
【実務系科目】 チラシ・パンフレットなどのグラフィックデザインや、それらに関わる企画の実務経験を持つ教員が、グラフィックデザインの技術を教える実習を行う。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
CGソフトウェアの基本的な知識を理解する。デザインツールとして、表現に活用可能な技術を習得する。				出席、課題提出、制作発表等による総合評価。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) コンピュータの基本的知識の理解				20	10	0	0	0	0	0	10
(2) CGソフトウェアの基本的な操作技術の習得				30	10	0	0	0	0	0	20
(3) コンピュータツールによる表現方法の確立				50	10	0	10	0	10	0	20
(4)				0	0	0	0	0	0	0	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) デザインツールとしてのコンピュータ知識と操作</b>											
実習全般の流れを説明する。コンピュータの基本操作とCGソフトウェアの概要について説明する。				シラバスを読んで、実習の流れを把握しておく。							
<b>(2) 直線を用いた構成</b>											
イラストレータの基本操作について説明する。テーマを設定し、「直線」だけを用いた平面構成を制作。				ラフスケッチを描いてくる。参考資料（写真、イラスト等）が必要な場合は、持参する。							
<b>(3) 曲線を用いた構成①</b>											
イラストレータの基本操作（特にベジェ曲線）について説明する。テーマを設定し、「曲線」だけを用いた平面構成を制作。				ラフスケッチや素材、資料等を用意する。							
<b>(4) 曲線を用いた構成②</b>											
イラストレータの基本操作について説明する。前回に引き続き、作品制作を行う。				各自制作を進めておく。							
<b>(5) イラストレータによる平面構成①</b>											
イラストレータの基本操作について説明する。ラフスケッチを元にイラストレータを使用して作品制作を行う。				ラフスケッチや素材、資料等を用意する。							
<b>(6) イラストレータによる平面構成②</b>											
イラストレータの基本操作について説明する。前回に引き続き、作品制作を行う。				各自制作を進めておく。							
<b>(7) 写真を用いた構成①</b>											
コラージュ制作を通して、フォトショップの基本操作について説明する。				ラフスケッチや素材、資料等を用意する。							
<b>(8) 写真を用いた構成②</b>											
フォトショップの基本操作について説明する。前回に引き続き、作品制作を行う。				各自制作を進めておく。							
<b>(9) イメージの視覚化①</b>											
イラストレータとフォトショップの特徴について説明する。2つのソフトを使用して、テーマに基づき平面構成を行う。				ラフスケッチや素材、資料等を用意する。							
<b>(10) イメージの視覚化②</b>											
イラストレータとフォトショップの連携について説明する。前回に引き続き、作品制作を行う。				各自制作を進めておく。							
<b>(11) イメージの視覚化③</b>											
イラストレータとフォトショップの操作説明をする。前回に引き続き、作品制作を行う。				各自制作を進めておく。							
<b>(12) テーマに基づく平面構成①</b>											
各自テーマを設定して、作品の制作を行う。習得した技術を活用し、企画を立案する。				企画案、関連資料を用意する。							
<b>(13) テーマに基づく平面構成②</b>											

各自テーマを設定して、作品の制作を行う。 企画に沿って、制作を進める。	各自制作を進めておく。
<b>(14) テーマに基づく平面構成③</b>	
各自テーマを設定して、作品の制作を行う。 企画に沿って、制作を進める。	各自制作を進めておく。
<b>(15) テーマに基づく平面構成④</b>	
作品のプレゼンテーションおよび講評。	客観的な視点から、作品の表現が伝わっているか検証する。成果、問題点等をまとめる。
<b>授業の項目と内容</b>	<b>自主学習課題</b>
	2DCGソフトウェアの実習が中心になります。使いこなして、表現力を拡張しましょう。積極的な取り組みを期待しています。 この科目は、両コースの学生（平成27年度以降入学生）を対象とした共通展開科目です。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
<b>受講生へのメッセージ</b>	

科目名	文化創造ワークショップ			コード	I005111a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	選択	2	2	前期							
担当者名	齊藤 理、大原 敏之、濱井 弘治、米本 太郎、池田 誠、村田 由貴子										
<b>授業概要</b> 地域文化や生活文化などの領域から、いくつかのトピックにワークショップ形式でふれ、そこに見られる実践的活動や方法についての理解を深めながら資質を養い、地域社会で積極的にみずからの役割を果たすための基礎的な行動力を養うことを目指す。 <b>【実務系科目】</b> 第5回目：中原中也記念館に勤務する講師を招聘し、現役の学芸員の実務経験をもとに文学に関わる展示方法について講義を行う。 第11回目：山口県観光連盟に勤務する講師を招聘し、現役の観光プロモーションの実務経験をもとに地域アイデンティティ形成について講義を行う。 第14回目：プロダクトデザイン事務所を主宰する講師を招聘し、現役のブランディングの実務経験をもとに付加価値創出サービスについて講義を行う。											
<b>到達目標</b> 地域文化や生活文化などの領域から、いくつかのトピックにワークショップ形式でふれ、そこに見られる実践的活動や方法についての理解を深めながら資質を養い、地域社会で積極的にみずからの役割を果たすための基礎的な行動力を養うことを目指す。				<b>成績評価の方法と基準</b> プレゼンテーション、レポートにより、評価する。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 講師が提示する事例を理解する				20	20						
(2) 課題を発見する				20				20			
(3) 企画する力				20				20			
(4) プレゼンテーション				40				40			
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
(1) 「文化創造ワークショップ」の概要と学習方法についてガイダンス(齊藤) および芸能ワークショップ(1)鷺流狂言ー衣装を見る(事前学習)											
講師の紹介、山口における課題、授業の進め方などについて概説。グループを決めて最終的な発表に向けたリサーチのスケジュール、方法、発表内容について簡単なガイダンス。その後、山口市に伝わる鷺流狂言の歴史や価値を概説した後、演劇にとって重要な要素である衣装(装束)について、その種類や着付け方を実物を用いて説明する。				身の回りで感じている文化創造の課題についてリストアップしておく。狂言装束の形態やデザインの特徴、その独特の着付け方についてまとめておく。							
(2) 芸能ワークショップ(2)鷺流狂言ー身体表現の実践(米本太郎)											
鷺流狂言の身体技法について、実演をまじえながら説明する。狂言の基本的な所作(カマエ・ハコビ等)の実践も行う。				狂言の身体表現の特徴についてまとめておく。できれば実際の舞台を鑑賞する機会を探す。							
(3) 芸能ワークショップに関する文化創造の企画・提案(ワークショップ)											
グループ毎に、関連する文化創造の企画提案を行う。グループワークおよびプレゼンテーション。				アクティブラーニング室等を活用し、プレゼンテーションの準備。							
(4) 文学ワークショップ(1) 文学資料を効果的に見せる(事前学習)											
中原中也記念館における展示の企画構成の事例等を踏まえながら、資料を通して文学的内容を伝えるくふうについて、学芸員の立場から論じる。				(できれば複数の)文学館や図書館等の展示を見学して、文学の展示に関わる知識と経験を持つておくこと。							
(5) 文学ワークショップ(2) 文学資料を効果的に見せる(池田誠)											
中原中也記念館における展示の企画構成の事例等を踏まえながら、資料を通して文学的内容を伝えるくふうについて、学芸員の立場から論じる。				(できれば複数の)文学館や図書館等の展示を見学して、文学の展示に関わる知識と経験を持つておくこと。							
(6) 文学ワークショップに関する文化創造の企画・提案(ワークショップ)											
グループ毎に、関連する文化創造の企画提案を行う。グループワークおよびプレゼンテーション。				アクティブラーニング室等を活用し、プレゼンテーションの準備。							
(7) 観光文化ワークショップ(1) 観光交流のあり方を考える(事前学習)											
身近な観光資源を取り上げながら、そこでの観光交流が、地域文化の継承・創造にどのように役立っているかを考えてみる。				身近な観光交流の実態についてあらかじめ調べておく。							
(8) 観光文化ワークショップ(2) 観光に関わる情報発信とは(村田由貴子)											
観光交流の輪をグローバルスケールで拡げていく方策を、とくに情報発信の視点からワークショップ形式で実践的に考えてみる。				観光情報の発信について実態を調べておく。							
(9) 観光文化ワークショップに関する文化創造の企画・提案(ワークショップ)											
グループ毎に、関連する文化創造の企画提案を行う。グループワークおよびプレゼンテーション。				アクティブラーニング室等を活用し、プレゼンテーションの準備。							

<b>(10) 産学連携ワークショップ(2) 地域の食文化を考える</b> (事前学習)	
和菓子の製造・販売を通じて、地域文化を伝えつつ、新たに創造し続けている事例を取り上げ、食文化を通じた文化創造について考える。	山口の食文化（とくに和菓子）について調べておく。
<b>(11) 産学連携ワークショップ(2) 地域の食文化を考える</b> (大原敏之)	
中世以来の山口の食文化を継承するユニークな催しを实践されておられる講師の話の伺い、地域の歴史・文化について、食の視点から掘り下げていく。	山口の食文化（とくに「歴食」）について調べておく。
<b>(12) 産学連携ワークショップに関する文化創造の企画・提案</b> (ワークショップ)	
グループ毎に、関連する文化創造の企画提案を行う。 グループワークおよびプレゼンテーション。	アクティブラーニング室等を活用し、プレゼンテーションの準備。
<b>(13) 地域ブランド創生ワークショップ(1)</b> (事前学習)	
地域ブランドを創出していく上で必要な視点の持ち方について、エコロジー、エシカル、日本文化の固有性などをキーワードに考えてみる。	エコロジー、エシカル等のキーワードについて調べておく。
<b>(14) 地域ブランド創生ワークショップ(2)</b> (浜井弘治)	
山口県は全国で有数の竹林産地。これを原材料とする竹林産業をアパレルビジネスにしブランド化することでまったくこれまでになかった産業を興す事はできないだろうか？	山口県の竹事情について調べておく
<b>(15) 地域ブランド創生ワークショップに関する文化創造の企画・提案</b> (ワークショップ)	
グループ毎に、関連する文化創造の企画提案を行う。 グループワークおよびプレゼンテーション。	アクティブラーニング室等を活用し、プレゼンテーションの準備。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
授業内で適宜講師が提示する	グループによる発表をするので、共同作業をスムーズにできる能力も習得してほしい。 この科目は「域学共創2」（グローバル人材育成推進事業）に該当します。
<b>受講生へのメッセージ</b>	この科目は「域学共創1」（「域学共創ワークショップ」）を履修していることを前提として進めます。 地域志向科目。
身近にある地域の文化、自然、歴史、人物などを題材にして、あたらしいものやことを創造し発信するために、普段から身近なものやことに興味をもって観察したり、調べておいてください。 講師の先生のご都合により、上記の日程、順番等が入り替わることもあります。	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（山口県立大学）

社会福祉学部 社会福祉学科

2019年度：合計128単位（全学教育25単位）（他学部等共通2単位）

省令で定める単位数等の基準数相当分（以下14単位分）

科目名	単位数	授業内容
臨床心理学Ⅰ	2	臨床心理士として、現在もカウンセリングに携わる教員が、主として青年期の危機的状況や問題行動（自傷行為・摂食障害・自殺・ひきこもり等）について、その理解と援助という視点から講義を行う。
福祉行財政論	2	自治体での在職中に福祉事務所に在籍し、障害者計画、地域福祉計画の策定に携わるとともに、管理職として福祉財政における予算作成経験のある教員が、自らの経験に基づき授業を展開する。
ソーシャルワーク論Ⅴ	2	行政職員として福祉事務所、精神衛生センター、各種福祉施設等においてソーシャルワーカーとしての実務経験を持つ教員が、自ら実践した内容を踏まえてソーシャルワークの講義を行います。
精神科ソーシャルワーク論Ⅰ	2	精神科医療機関の実践現場における実務経験を有する教員が、自らの経験に基づき講義を行う。
介護福祉論	2	特別養護老人ホーム及び心身障害者訓練施設での実務経験を持つ教員が、介護保険施設等の実践現場で必要となる介護の基本的考え方や要介護者の理解・支援に関する知識と技術を教授し、ソーシャルワーカーとしての基本となる資質を身につけられるよう講義を行う。
公的扶助論	2	自治体での在職中に福祉事務所に在籍し、生活保護ケースワーカー、専任面接相談員、査察指導員の経験を有する教員が、自らの経験に基づき授業を展開する。
社会福祉運営管理論	2	社会福祉法人における障害福祉サービス事業の責任者として運営管理の実務経験を持つ教員が、福祉サービス事業の運営管理に関する授業を行う。

科目名	臨床心理学 I			コード	K001006a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	選択	2	2	前期							
担当者名	大石 由起子										
<b>授業概要</b>											
本講義では様々なこころの問題を取り上げ、臨床心理学的な人間理解および援助のあり方についての知見を深めることを目的とする。乳幼児期の母子関係論にはじまり、児童期・青年期における情緒障害や問題行動の諸相について、その状態像からケアのあり様まで実践的に論じていく。											
【実務系科目】 臨床心理士として、現在もカウンセリングに携わる教員が、主として青年期の危機的状況や問題行動(自傷行為・摂食障害・自殺・ひきこもり等)について、その理解と援助という視点から講義を行う。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
子どもの心や青年期の病める心について学ぶ中で、自己理解を深めるとともに、より柔軟な他者理解へと向かい、健常者・非健常者双方への新たな関わりの示唆を得ることを目標とする。				授業後のコメントおよび学期末試験により評価する。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 人のこころについての概念、及びその発達や変容について理解する				30	0	0	0	0	0	30	0
(2) 心理的不適応の様相について理解する				30	0	0	0	0	0	30	0
(3) 心理的不適応への援助的関わりについて理解する				25	0	0	0	0	0	25	0
(4) 知識や概念を身近な出来事との関連の中で捉える				15	15	0	0	0	0	0	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 臨床心理学とは</b>											
臨床心理学とはどのような領域の学問であるのか、また本講義ではどのような内容を取り上げていくのかについてガイダンスを行う。				「臨床」という言葉について調べておく。							
<b>(2) 母子関係論 1</b>											
ボウルビイの愛着行動・分離不安・対象喪失の理論について論じ、母と子の絆について考える。				自身および身近なところで見聞きした愛着行動について考える。							
<b>(3) 母子関係論 2</b>											
ボウルビイの愛着行動・分離不安・対象喪失の理論について、子どもの対象喪失や分離不安の反応と、その癒しの過程について論じる。				自身の分離不安や対象喪失の体験について考える。							
<b>(4) 母子関係論 3</b>											
ウィニコットのホールディングをめぐって、母親の関わりについて論じる。また、子どもにとってその体験がどのような意味を持つのかについて考える。				自分にとってのホールディング体験について考える。							
<b>(5) 場面緘黙</b>											
場面緘黙とは何か、状態像、要因、援助的関わりについて論じる。				場面緘黙の子どもに関わる際に大切なポイントを整理しておく							
<b>(6) 不登校 1</b>											
従来型不登校の、状態像・変化の過程・援助的関わりについて論じる。				不登校には、様々なタイプがあることを理解し、整理しておく。							
<b>(7) 不登校 2</b>											
現代型不登校の特徴と対応について論じる。				不登校の状態像が従来型と現代型でどのように変わってきたかについて整理しておく。							
<b>(8) スチューデントアパシーと社会的引きこもり 1</b>											
大学生に見られる不登校や無気力の問題と、青年期の社会的引きこもりの問題について論じる。				テキスト4章を読んでおく。							
<b>(9) スチューデントアパシーと社会的引きこもり 2</b>											
大学生に見られる不登校や無気力の問題と、青年期の社会的引きこもりの問題について論じる。				無気力に陥った時の立ち直りの工夫、および援助方法について整理しておく。。							
<b>(10) 摂食障害 1</b>											
青年期の女性を中心にふえてきた拒食・過食の問題について、その状態像から治療的関わりについて論じる。				テキスト5章を読んでおく。							
<b>(11) 摂食障害 2</b>											
青年期の女性を中心にふえてきた拒食・過食の問題について、その状態像から治療的関わりについて論じる。				摂食障害と現代社会の関連について考える。							

<b>(12) 自傷行為</b>	
自傷行為の理解と対応について論じる。	テキスト6章を読んでおく。
<b>(13) 死をめぐる 1</b>	
病気による死とその受容のプロセス、自殺や事故、犯罪などによる突然の死に対して、遺された者のケアの問題などについて論じる。	セルフヘルプグループ(自助グループ) について調べておく。
<b>(14) 死をめぐる 2</b>	
自殺の現況と予防的対応について論じる。	テキストの8章を読んでおく。
<b>(15) ふりかえり</b>	
講義で扱ったテーマについて、総合的にふりかえる。	課された課題について取り組む。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
テキスト:「青年期の危機とケア」大石由起子編著 ふくろう出版。 その他の参考文献はその都度紹介する。	
<b>受講生へのメッセージ</b>	
YPUポータルのコミュニケーションボードに、講義のコメントとして、質問・感想や、身近な出来事についての考察など書き込んでください。授業態度として評価します。	

科目名	福祉行財政論			コード	K003102a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	選択	2	2	前期							
担当者名	内田 充範										
<b>授業概要</b>											
社会福祉において国及び地方自治体は、大きな役割を担っている。この国及び地方自治体の役割を福祉行財政と福祉計画を通じて体系的に説明する。											
【実務系科目】 自治体での在職中に福祉事務所に在籍し、障害者計画、地域福祉計画の策定に携わるとともに、管理職として福祉財政における予算作成経験のある教員が、自らの経験に基づき授業を展開する。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
福祉行財政・計画の知識を有することにより、社会福祉実践を通じての人間の福利の向上のための社会貢献力を修得する。				小テスト60点、自主学習ワークシート20点、およびレポート20点の合計100点中60点以上を単位認定する。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 社会福祉計画について理解する。				25	0	15	5	5	0	0	0
(2) 社会福祉行政の実施機関・専門職について理解する。				25	0	15	5	5	0	0	0
(3) 社会福祉に関する財源について理解する。				25	0	15	5	5	0	0	0
(4) 社会福祉行政の変遷について理解する。				25	0	15	5	5	0	0	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 社会福祉の進展</b>											
社会福祉行政の範囲、明治時代以降の社会福祉の展開について概説する。				社会福祉に関する新聞記事、ニュースを調べる。							
<b>(2) 福祉行政の組織と相談システム</b>											
福祉行政機関の組織と相談システムおよびその専門職について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(3) 福祉行政と福祉事務所</b>											
福祉事務所を中心とする地方自治体の行政機関・専門職の役割、国と地方の関係について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(4) 福祉行政の法体系</b>											
福祉行政に関する各種法令について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(5) 社会福祉基礎構造改革</b>											
社会福祉基礎構造改革に関して、サービス利用の措置から契約への移行、社会福祉法に規定されているサービス利用者の権利擁護等について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(6) 福祉行政と地方分権改革</b>											
地方分権改革の推進における地方自治体の役割の増大と課題について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(7) 国の福祉財政</b>											
国家財政における福祉予算としての社会保障給付費及びその財源、利用者負担について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(8) 都道府県等の福祉財政</b>											
国と地方自治体の役割分担、都道府県の福祉財政について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(9) 市町村の福祉財政</b>											
市町村における福祉財政について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(10) 社会福祉計画の意義と目的</b>											
福祉計画策定の背景と意義・目的、住民参加の意義、福祉行財政との関係及び根拠法令について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(11) 老人福祉計画・介護保険事業計画</b>											
老人福祉計画及び介護保険事業計画の策定過程・方法・留意点・評価方法について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(12) 障害者計画・障害福祉計画</b>											
障害者計画及び障害福祉計画の策定過程・方法・留意点・評価方法について概説する。				事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。							
<b>(13) 地域福祉計画</b>											

地域福祉計画の策定過程・方法・留意点・評価方法及び地域福祉活動計画との関連について概説する。	事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。
<b>(14) 次世代育成支援行動計画・子ども子育て支援計画</b>	
次世代育成支援行動計画・子ども子育て支援計画の策定過程・方法・留意点・評価方法について概説する。	事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。
<b>(15) これからの福祉計画</b>	
福祉計画を通じての行政と住民との協働、持続可能な社会福祉制度の構築について概説する。	事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
テキスト：「概説福祉行財政と福祉計画」（ミネルヴァ書房）。他に社会福祉六法は必携。	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格取得必修科目
<b>受講生へのメッセージ</b>	
社会情勢に関心を持って、社会福祉行財政・計画が社会の中で、どのように機能しているか考える力をつけていきましょう。	

科目名	ソーシャルワーク論Ⅴ			コード	K003105a				
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期					
講義	選択	2	2	後期					
担当者名	草平 武志								
<b>授業概要</b>									
<p>ケアマネジメントとは、利用者が在宅生活を続けられるように利用者本人や家族を支援する方法である。介護保険法において、ケアマネジメントは限定される形で法制度の中に位置づけられ、高齢者を分野の実践はある程度蓄積されてきた。しかし介護保険制度においては、ケアマネジャーは介護支援専門員と位置づけられるが、その質の確保は発展途上である。それは、ケアマネジメントとは何か、あるいはその技術とは何かという本質が十分議論が尽くされていないからだと考えられる。そこで本講義ではケアマネジメントの本質を探究しながら現在のわが国の介護保険制度の中におけるケアマネジメントの技法等についてもふれることとする。</p> <p>【実務系科目】 行政職員として福祉事務所、精神衛生センター、各種福祉施設等においてソーシャルワーカーとしての実務経験を持つ教員が、自ら実践した内容を踏まえてソーシャルワークの講義を行います。</p>									
<b>到達目標</b>			<b>成績評価の方法と基準</b>						
ケアマネジメントの基本的考え、ケアマネジメントのプロセスを理解し、ケアマネジメントの方法・技術を身につけることができる。			授業の出席・態度と試験の成績を総合的に評価する。						
<b>学習目標</b>			<b>評価項目と割合</b>						
<b>具体的学習目標</b>		配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) ケアマネジメントの基本を理解することができる。		25	5	5	0	0	0	15	0
(2) アセスメントの方法が理解できる。		25	5	5	0	0	0	15	0
(3) ケアプランの作成方法を理解できる。		25	5	5	0	0	0	15	0
(4) カンファレンスやモニタリングの方法が理解できる。		25	5	5	0	0	0	15	0
<b>授業の項目と内容</b>			<b>自主学習課題</b>						
(1) 第1章 ケアマネジメントの概略 第2章 ケアマネジメントの基本概念①									
第1章 事例を用いて、ケアマネジメントの概要を説明する。 第2章 ケアマネジメントの歴史的背景、必要性、定義、理念について解説する。			事例を熟読し、ケアマネジメントの概要を把握する。						
(2) 第2章 ケアマネジメントの基本概念②									
ケアマネジメントの機能、ケアマネジメントと介護保険制度の関係について解説する。			介護保険制度を復習し、その中に位置づけられたケアマネジメントの特徴を整理する。						
(3) 第3章 ケアマネジメントのプロセスの概観 第4章 インテーク									
第3章 ケアマネジメントのプロセスについて、ソーシャルワークのプロセスと比較しながら解説する。 第4章 インテークの定義、インテークの機能、インテーク時の留意点について解説する。			ケアマネジメントの過程を復習し、その過程のもち一つ一つの意味を自分なりに反芻して理解する。						
(4) 第5章 アセスメント①									
アセスメントを定義し、その定義を応用してアセスメントの重要な要素である、情報収集の方法、生活ニーズの把握の方法について事例を活用しながら解説する。			アセスメントとは何か、自分なりに定義し、文章化してみる。						
(5) 第5章 アセスメント②									
アセスメントの基本的な視点及び生活ニーズを抽出する具体的な思考過程について解説する。			生活ニーズの構造を説明できるようにする。						
(6) 第6章 ケアプラン①									
ケアプランの構造について解説する。			ケアプランの構造を事例を参考に復習し、自分であればこのようなプランを作成してみようというイメージを作る。						
(7) 第6章 ケアプラン②									
生活課題、目標、援助内容の抽出の仕方をICFの概念を用いて解説する。			ICFを理解したうえで、ニーズが抽出できるようにする。						
(8) 第6章 ケアプラン③									
アセスメントからケアプラン作成までの思考過程を事例を活用しながら解説する。			ケアプラン作成までの思考過程を復習する。						
(9) 第7章 ケアカンファレンスとチームアプローチ									
ケアカンファレンスの意義と具体的な方法について解説する。また、多職種とのチームアプローチ理論を踏まえ、具体的な方法について解説する。			ソーシャルワーカーのためのチームアプローチ論のケアマネジメントの章を読んでくる。						
(10) 第8章 モニタリング									
モニタリングの意義と具体的な方法について解説する。			モニタリングの意義と方法について復習をする。						

<b>(11) 第9章 地域包括支援センターと介護予防ケアマネジメント</b>	
地域包括支援センターの機能を整理したうえで、介護予防ケアマネジメントの具体的展開方法について解説する。	地域包括支援センター業務マニュアルをインターネットからダウンロードし、介護予防に関する章を読んでくる。
<b>(12) 第10章 事例研究① -ICFとアセスメント-</b>	
ICFの考え方をもちに、高齢者をアセスメントする方法について事例を用いて解説する。	事例を熟読し、ケアマネジメントの機能について理解する。
<b>(13) 第10章 事例研究② -ICFとアセスメント-</b>	
ICFの社会モデルと医学モデルの統合理論をもちに、高齢者をアセスメントする方法について事例を用いて解説する。	事例を熟読し、ケアマネジメントの機能について理解する。
<b>(14) 第10章 事例研究③ -高齢者虐待-</b>	
虐待事例をもちに、ケアマネジャーの役割について事例を用いて考察する。	事例を熟読し、ケアマネジメントの機能について理解する。
<b>(15) 第10章 事例研究④ -介護予防-</b>	
介護予防事例をもちに、介護予防の重要性とともにケアマネジャーの役割について事例を用いて考察する。	事例を熟読し、ケアマネジメントの機能について理解する。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
白澤政和編著『ケアマネジメント論』ミネルヴァ書房 2019.1	ソーシャルワーク論ⅠからⅣまでに学習したことをよく復習して授業に臨んでください。
<b>受講生へのメッセージ</b>	

科目名	精神科ソーシャルワーク論 I			コード	K003107a			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	選択	2	3	前期				
担当者名	高木 健志							
<b>授業概要</b>								
精神科医療の特性（精神科医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方、精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について講義を通じて展開する。								
【実務系科目】 精神科医療機関の実践現場における実務経験を有する教員が、自らの経験に基づき講義を行う。								
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>				
精神保健福祉領域におけるケースワーク・グループワークについて理解する。そのうえで、実践事例等から、どこにどのような技術が用いられて展開されるのかといったことを説明できるようになる。				平常点、講義期間中に適宜実施するレポート及び期末試験で総合的に評価し、総合得点60点以上（100点満点）で単位認定する。				
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>				
<b>具体的学習目標</b>	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 精神保健医療福祉の歴史について理解することができる。	25	5	0	5	5	0	10	0
(2) 精神保健福祉の動向について理解することができる。	25	5	0	5	5	0	10	0
(3) 精神障害者に対する支援の基本的な考え方について理解することができる。	25	5	0	5	5	0	10	0
(4) 精神障害者に対する支援に必要な知識について、事例を通じて理解することができる。	25	5	0	5	5	0	10	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>				
<b>(1) わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向について</b>								
わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向について理解します。				指示するテキストの該当箇所をよく読んでおいて下さい。				
<b>(2) 諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷について</b>								
諸外国の精神保健医療福祉の状況等について理解します。				指示するテキストの該当箇所をよく読んでおいて下さい。				
<b>(3) 精神保健福祉士における活動の歴史①</b>								
精神保健福祉士における活動の歴史等について理解します。				指示するテキストの該当箇所をよく読んでおいて下さい。				
<b>(4) 精神保健福祉士における活動の歴史②</b>								
精神保健福祉士の活動の歴史等について理解していきます。				事前に配布する資料をよく読んでおいてください。				
<b>(5) 精神保健福祉士における活動の歴史③</b>								
精神保健福祉士の活動の歴史等に焦点を当てて理解していきます。				事前に配布する資料をよく読んでおいてください。				
<b>(6) 精神保健福祉士における活動の歴史④</b>								
精神保健福祉士の活動の歴史等に焦点を当てて理解していきます。				事前に配布する資料をよく読んでおいてください。				
<b>(7) 精神障害者支援の理念①</b>								
精神障害者支援の理念について理解していきます。				事前に配布する資料をよく読んでおいてください。				
<b>(8) 精神障害者支援の理念②</b>								
精神障害者支援の理念について理解していきます。				事前に配布する資料をよく読んでおいてください。				
<b>(9) 精神保健医療福祉領域における支援対象者①</b>								
精神保健医療福祉領域における支援対象者に焦点を当てて理解していきます。				事前に配布する資料をよく読んでおいてください。				
<b>(10) 精神保健医療福祉領域における支援対象者②</b>								
精神保健医療福祉領域における支援対象者に焦点を当てて理解していきます。				事前に配布する資料をよく読んでおいてください。				
<b>(11) 精神障害者の人権①</b>								
精神障害者の人権に焦点を当てて理解していきます。				事前に配布する資料をよく読んでおいてください。				
<b>(12) 精神障害者の人権②</b>								
精神障害者の人権に焦点を当てて理解していきます。				事前に配布する資料をよく読んでおいてください。				
<b>(13) 相談援助の過程及び対象者との援助関係①</b>								
講義に具体的な事例をまじえるなどしつつ、相談援助の過程及び対象者との援助関係に焦点を当てて理解していきます。				事前に配布する資料をよく読んでおいてください。				
<b>(14) 相談援助の過程及び対象者との援助関係②</b>								

講義に具体的事例をまじえるなどしつつ、相談援助の過程及び対象者との援助関係に焦点を当てて理解していきます。	事前に配布する資料をよく読んでおいてください。
<b>(15) まとめ</b>	
本講義のまとめを行います。	本科目のまとめを行っておいてください。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
テキスト：中央法規出版『新・精神保健福祉士養成講座 第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』	精神保健福祉士受験資格取得を目指す学生にとっては、必須の科目です。受講態度、定期試験・レポートの得点で評価します。記述されているものについては、テキストや講義内容をふまえて、受講生自身がどのように理解したのか、といったことを、受講生自身の考えと併せて十分に記述されているのかどうか、という観点から評価していきます。
<b>受講生へのメッセージ</b>	
精神保健福祉士受験資格取得を目指す学生にとっては、必須の科目です。また、関心のある学生は受講可能です。	

科目名	介護福祉論			コード	K003111a					
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期						
講義	選択	2	2	前期						
担当者名	横山 正博									
<b>授業概要</b>										
本講義では、主に高齢者を理解する方法論及び高齢者の介護・支援論について論じる。老化・加齢、高齢者の疾病、特に介護を必要としている高齢者の生活実態をICFを用いて把握することを第一に試みる。次に、介護の概念や実際の介護の方法を踏まえ、ICFの視点からどのような介護・支援をソーシャルワーカーが展開すればよいかを論じる。										
【実務系科目】 特別養護老人ホーム及び心身障害者訓練施設での実務経験を持つ教員が、介護保険施設等の実践現場で必要となる介護の基本的考え方や要介護者の理解・支援に関する知識と技術を教授し、ソーシャルワーカーとしての基本となる資質を身につけられるよう講義を行う。										
<b>到達目標</b>			<b>成績評価の方法と基準</b>							
高齢者を老化・加齢、健康と疾病、生涯学習、適応、の観点からとらえ、その生活実態を国際生活機能分類（ICF）の枠組みを用いて理解することができる。また、介護を必要としている高齢者及びその家族に対して、ソーシャルワーカーとしてどのように支援を展開していけばよいか、介護の概念や介護の方法を踏まえ、ICFの枠組みを用いて、その具体的な方法について自ら考えることができる。			講義に毎回出席をすることを前提とし、学期末に試験を実施する。評価の基準は、高齢者に関する知識を正しく理解できていること、高齢者の支援方法について自ら考えることができていること、この2点が適切に述べられているか総合的に評価する。							
<b>学習目標</b>			<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>			配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 加齢・老化、健康と疾病、生涯学習、適応の観点から高齢者を理解することができる。			25		5				20	コメントボードの記載も加味して加算する。
(2) ICFの基本的枠組みを用いて、高齢者の生活像を把握することができる。			25		5				20	コメントボードの記載も加味して加算する。
(3) 介護の概念とその方法を理解し、介護を必要としている高齢者及びその家族のかかえている生活課題を抽出できる。			25		5				20	コメントボードの記載も加味して加算する。
(4) 介護を必要としている高齢者及びその家族に対して、ICFの枠組みを用いて、ソーシャルワーカーとしての支援方法を自ら考えることができる。			25		5				20	コメントボードの記載も加味して加算する。
<b>授業の項目と内容</b>			<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 第1章 老化・加齢</b>										
老化と加齢の意味、老化の原則、老化の学説、老化の諸相、老化とパーソナリティについて解説する。			老化と加齢の違いについて説明できるように、講義の内容を整理する。							
<b>(2) 第2章 高齢期の学習・教育・社会参加</b>										
高齢者の余暇生活、生涯学習、社会参加活動の実態について解説する。			高齢者にとっての余暇生活の意味を考える。							
<b>(3) 第3章 高齢期の適応</b>										
高齢期の発達課題、高齢期の環境の変化について解説する。			R.J. HavighaustやE.H.Eliksonの述べている概念を用いて、高齢期の発達課題を整理する。							
<b>(4) 第4章 高齢期の健康と疾病</b>										
高齢者の健康観察の重要性、生活の中の医療の基本的考え方、高齢期の疾病の特徴、ICD-10、介護認定における特定疾病、高齢者介護・支援と疾病について解説する。			高齢期に特徴的な疾病について整理し、その知識を深める。							
<b>(5) 第5章 高齢者の生活機能① -高齢者の生活機能の評価-</b>										
高齢者の生活機能を評価する枠組み、ADLの定義と構造、閉じこもり、廃用症候群について解説し、高齢者の生活実態の諸相を論じる。			ADLと廃用症候群について、説明できるように講義の内容を整理する。							
<b>(6) 第5章 高齢者の生活機能② -ICFと高齢者の生活機能-</b>										
ICFの構造について解説し、ICFの枠組みから高齢者の生活機能の特徴について論じる。			ICFの基本的構造を理解し、ICFの枠組みを用いて高齢者の生活を把握できるようにする。							
<b>(7) 第6章 介護・ケアの概念 -介護・ケアの概念と理念-</b>										
介護の概念、ケアの概念についての所説を解題し、介護とは何か、ケアとは何かを考察する。			介護とは何か、授業の内容を整理し、理解する。							
<b>(8) 第7章 介護・ケアの実践① -認知症高齢者に対する介護・ケア-</b>										
認知症の定義・概念、認知症の診断基準、認知症に関する統計的データ、認知症の中核症状とBPSD、認知症の評価スケール、認知症の医療について解説する。			認知症の中核症状とBPSDについて理解を深める。							
<b>(9) 第7章 介護・ケアの実践② -認知症高齢者に対する介護・ケア-</b>										

認知症高齢者に対するケアの基本的考え方、ICFを用いた認知症高齢者に対する接近方法、認知症高齢者の家族、認知症高齢者の支援体制について解説し、ソーシャルワーカーとしてどのように認知症高齢者及びその家族を支援していけばよいかを考察する。	ICFの枠組みを用いて認知症高齢者の生活ニーズを抽出できるようにする。
<b>(10) 第7章 介護・ケアの実際③ -介護予防-</b>	
介護予防の定義、介護予防の基本的考え方、介護予防の具体的な支援方法について解説し、ソーシャルワーカーとしてどのように介護予防について支援していけばよいかを考察する。	介護予防の重要性を高齢者生活機能と関連付けて理解を深める。
<b>(11) 第7章 介護・ケアの実際④ -介護の専門職とソーシャルワーカー-</b>	
介護過程、介護計画の作成方法について解説し、介護職とソーシャルワーカーがどのように連携すればよいかを考察する。	介護計画の概要をICFの枠組みと関連づけて整理する。
<b>(12) 第8章 高齢者介護の展開方法① -多職種によるチームアプローチ-</b>	
ICFの枠組みを用いた多職種によるチームアプローチの展開方法について事例を用いて解題する。	事例研究を復習し、事例に対して自分の解釈ができるようにする。
<b>(13) 第8章 高齢者介護の展開方法② -終末期の高齢者介護-</b>	
ICFの枠組みを用いた終末期ケアの展開方法のについて事例を用いて解題する。	事例研究を復習し、事例に対して自分の解釈ができるようにする。
<b>(14) 第8章 高齢者介護の展開方法③ -高齢者施設におけるソーシャルワーカー-</b>	
レジデンシャルソーシャルワークの展開方法について事例を用いて解題する。	事例研究を復習し、事例に対して自分の解釈ができるようにする。
<b>(15) 第8章 高齢者介護の展開方法④ -高齢者虐待予防支援とソーシャルワーカー-</b>	
高齢者虐待予防の展開方法について事例を用いて解題する。	事例研究を復習し、事例に対して自分の解釈ができるようにする。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
教材は、オリジナルの資料を毎回配布します。	
<b>受講生へのメッセージ</b>	
ソーシャルワークを介護の視点に立って把握できるように心がけてください。	

科目名	公的扶助論			コード	K003112a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	選択	2	3	前期							
担当者名	内田 充範										
<b>授業概要</b>											
国民の生存権を保障する制度、健康で文化的な最低生活を保障する制度とはどのようなものなのか、現行生活保護法を中心に事例を取り上げながら、国民生活に密着した公的扶助制度について考える。											
【実務系科目】 自治体での在職中に福祉事務所に在籍し、生活保護ケースワーカー、専任面接相談員、査察指導員の経験を有する教員が、自らの経験に基づき授業を展開する。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
貧困問題に関心を持ち、身近な問題としてとらえるとともに、生活困窮者の権利擁護・エンパワメント視点に基づいたソーシャルワーク理論を理解する。				授業内に実施する小テスト60点、自主学習ワークシート20点、レポート20点の合計100点中60点以上を単位認定する。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 日本及び諸外国の低所得者対策についての理解				30	0	15	5	10	0	0	0
(2) 生活保護法の四原理四原則についての理解				20	0	15	5	0	0	0	0
(3) 生活保護の内容及び方法についての理解				20	0	15	5	0	0	0	0
(4) 生活保護法における権利義務および不服申し立てについての理解				30	0	15	5	10	0	0	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 公的扶助とソーシャルワーカー</b>											
さまざまな貧困問題とその解決のためのソーシャルワーク実践について概説する。				新聞記事・ニュース等から貧困問題について調べる。							
<b>(2) 貧困・低所得者問題</b>											
現代的貧困・低所得者・生活困窮者問題および貧困基準・最低生活費の定義について概説する。				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。							
<b>(3) 福祉国家と公的扶助</b>											
イギリスの公的扶助の歴史から、福祉国家と公的扶助の位置づけについて概説する。				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。							
<b>(4) わが国の公的扶助の歴史</b>											
わが国の公的扶助の歴史を概観し、各時代の制度内容の変遷を比較・分析する。				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。							
<b>(5) 生活保護法の基本原理</b>											
生活保護法第1条～4条（四原理）を具体的事例と関連付けて概説するとともに、いろいろな条件を想定して保護の実施・運用について考察する。				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。							
<b>(6) 生活保護法の基本原則</b>											
生活保護法7条～10条（四原則）を具体的事例と関連付けて概説するとともに、いろいろな条件を想定して保護の実施・運用について考察する。				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。							
<b>(7) 生活保護基準と扶助の種類</b>											
生活保護基準と保護の種類・範囲・方法、保護の可否判定・程度の決定について概説する。				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。							
<b>(8) 生活保護受給中の権利・義務</b>											
生活保護受給中の権利・義務、不服申し立てと行政訴訟について「朝日訴訟」を例に概説する。				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。							
<b>(9) 生活保護の実施体制と支援方法</b>											
生活保護制度における国と地方自治体の役割、福祉事務所の組織運営について概説する。				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。							
<b>(10) 生活保護の動向と課題</b>											
生活保護の動向から考えられる低所得者支援の課題について概説する。				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。							
<b>(11) 自立支援プログラム</b>											
生活保護ソーシャルワーク実践としての自立支援プログラムについて概説する。				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。							
<b>(12) 生活困窮者への支援制度</b>											
生活福祉資金貸付制度及び他の生活困窮者政策について概説す				テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを							

る。	完成させる。
<b>(13) ホームレス自立支援政策</b>	
ホームレスの実態および政策を概説するとともに、「ホームレスをどうとらえるか」「ホームレス支援はどうあるべきか」などについて考察する。	テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。
<b>(14) 生活困窮者自立支援法・子どもの貧困対策に関する法律</b>	
生活困窮者自立支援事業および子どもの貧困対策事業について概説する。	テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。
<b>(15) これからの公的扶助論とソーシャルワーク</b>	
現代社会における公的扶助の意義とソーシャルワーク実践について概説する。	テキストの該当ページを熟読し、事前配布するワークシートを完成させる。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
MINERUVA社会福祉士養成テキストブック「公的扶助論」(ミネルヴァ書房)	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格取得必修科目
<b>受講生へのメッセージ</b>	
社会情勢や社会問題と関連付けて、生活保護制度を中心とする低所得者対策について考察を深めましょう。	

科目名	社会福祉運営管理論			コード	K003113a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	選択	2	3	後期							
担当者名	水藤 昌彦										
<b>授業概要</b> 社会福祉施設等の発展の歴史と到達点としての現状と課題を整理し、福祉サービスに関わる組織や団体について、その経営と管理運営の現場を含めて理解するとともに、利用者主体のニーズを実現できる運営管理や支援サービスの在り方を考える。また、マンパワーとしての職員の在り方を意識化させる授業展開を心がける。  【実務系科目】 社会福祉法人における障害福祉サービス事業の責任者として運営管理の実務経験を持つ教員が、福祉サービス事業の運営管理に関する授業を行う。											
<b>到達目標</b> 福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人等）について理解する。 福祉サービスを提供する組織と経営に係る基礎理論、および現場における実態について理解する。 福祉サービスの運営と管理について理解する。				<b>成績評価の方法と基準</b> 下記の欄を参照のこと。 学期末試験は持ち帰り方式で実施する。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 福祉サービスに係る組織や団体を理解する				25	5	0	0	0	0	20	0
(2) 福祉サービスを提供する組織と経営に係る基礎理論、および現場における実態について理解する				25	5	0	0	0	0	20	0
(3) 福祉サービスの経営と運営管理について理解する				25	5	0	0	0	0	20	0
(4) 求められる職員像について理解する				25	5	0	0	0	0	20	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) オリエンテーションおよび本講義の目的と概要</b>											
本講義の目的と全体構成を確認する。 社会福祉事業、その実施主体としての社会福祉法人等の使命について学ぶことの意義を考える。				社会福祉事業のイメージ、その実施主体の使命、役割について事前に検討しておく。							
<b>(2) 福祉サービス提供組織の沿革</b>											
福祉サービス提供組織の沿革 福祉サービス提供組織の概況				自分の興味関心のある福祉領域における、提供組織の沿革と概況を事前に調べておく。							
<b>(3) 福祉サービス提供組織の役割（1）</b>											
第2次大戦以前の社会事業 第2次世界大戦以降から社会事業法成立まで				関連科目において過去に学習した、福祉サービス提供組織の歴史について、特に第2次世界大戦前後の時期を中心に事前に復習しておく。							
<b>(4) 福祉サービス提供組織の役割（2）</b>											
社会福祉事業法成立から介護保険法成立まで 介護保険法成立から障害者総合支援法成立まで				関連科目において過去に学習した、福祉サービス提供組織の歴史について、特に第2次世界大戦以降の時期を中心に事前に復習しておく。							
<b>(5) 福祉サービス提供組織の体系と制度</b>											
福祉サービス組織の体系 福祉サービス組織に係る制度				社会福祉法人とNPO法人について、それぞれの制度的背景を事前に調べておく。							
<b>(6) 福祉サービスの提供組織と地域社会</b>											
社会福祉法人と地域社会 NPOと地域社会 その他の組織および団体と地域社会				社会福祉法人とNPO法人について、それぞれの地域社会とのつながりの違いについて事前に調べておく。							
<b>(7) 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論</b>											
組織と経営に関する基礎理論 管理と運営に関する基礎理論 集団力学とリーダーシップに関する基礎理論				これまでの講義内容をふり振り返り、特に社会福祉法人とNPO法人の経営の特徴について事前に復習しておく。							
<b>(8) 福祉サービスの業務運営と経営</b>											
福祉サービス組織の運営と経営の特徴 社会福祉法人の運営と経営 NPO法人の運営と経営 その他の組織の運営と経営				これまでに接したことのある社会福祉法人、NPO法人、医療法人などのうちから1つの組織を選び、その経営について検討してみる。							
<b>(9) 福祉サービス提供組織の人事労務・財務・会計管理</b>											
福祉サービスに求められる財務・会計管理 福祉サービス提供組織の人事労務管理				関連科目において過去に学習した、措置制度から契約制度への移行の歴史とその特徴を事前に復習しておく。							
<b>(10) 福祉サービスの提供組織の建物と組織</b>											
高齢者福祉サービス施設				自分がこれまでに訪問したことのある各種施設について、その							

児童福祉サービス施設 障害者福祉サービス施設	建物や設備の特徴をまとめておく。
<b>(11) 福祉サービス組織の管理運営の方法と実際</b>	
コンプライアンスとガバナンス 人材の育成と確保 労働環境の整備	新聞記事などを参照し、近年のコンプライアンスとガバナンスをめぐる一般的な社会状況について確認してみる。
<b>(12) 利用者のニーズとサービスマネジメント</b>	
サービス利用者とニーズの動向 福祉サービス提供組織の基本 サービス計画の基本	児童、高齢者、障害者、あるいはその他の福祉領域のなかから、任意に1つを選び、現代の利用者ニーズについてまとめてみる。
<b>(13) 福祉サービス組織の危機管理</b>	
危機管理とは何か 個人情報保護とプライバシー 適切な福祉・介護サービス提供体制の確保	新聞記事などを参照し、近年の個人情報保護とプライバシーをめぐる一般的な社会状況について確認してみる。
<b>(14) 福祉サービス組織の国際比較</b>	
欧米における福祉サービス提供組織 アジアにおける福祉サービス提供組織	欧米、アジア地域の地理的、文化的特徴等の背景情報について、文献等を用いて調べておく。
<b>(15) これからの福祉サービス提供組織の経営と運営の戦略</b>	
社会福祉施設経営と運営の在り方の変化 「公的関与」と経営 これからの社会福祉施設の経営戦略	これまでの学習内容をふり返り、これからの社会福祉施設の経営戦略についてまとめてみる。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
テキストは指定しない。レジュメを使用する。 副読本：久門道利・西岡修編『福祉サービスの組織と経営－社会福祉運営管理・社会福祉施設経営』（弘文堂、2008年）、社会福祉士養成講座編集委員会編『福祉サービスの組織と経営第5版』（中央法規出版、2018年）	期末試験については、事前に問題用紙を配布するので、受講者は各自で答案を作成し、指定した期日までに提出すること。具体的評価基準については、講義内で配布する文書にて明示する。
<b>受講生へのメッセージ</b>	
近年、社会福祉サービスを巡る状況は大きく変化してきています。その背景には社会構造、法制度、利用者・経営者・労働者・それらを取り巻くその他の人びとの意識など、多様な要素の変化があります。本講義を通じて、これらの社会的状況の変化についても受講者の皆さんとともに考えていきたいと思えます。	

## 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（山口県立大学）

### 看護栄養学部 看護学科

2019年度：合計125単位（全学教育25単位）（他学部等共通4単位）

省令で定める単位数等の基準数相当分（以下13単位分）

科目名	単位数	授業内容
社会福祉学	2	福祉事務所ケースワーカー等の福祉行政職員や障害福祉サービス事業所を運営する社会福祉法人職員としての実務経験を有する教員が、社会福祉全般にかかわる概論について講義を行う。
臨床病態学 I	3	医師として実務経験を有する教員が、臨床現場でのニーズを踏まえて講義を行う。
保健医療福祉システム論	2	自治体の在職中に、福祉行政に係る実務経験を持つ講師が、自らの経験に基づき講義を行う。
リハビリテーション論	1	看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の実務経験を有する講師陣が、リハビリテーションを展開するために必要な思考・技術に関する内容について講義を行う。
精神保健学	1	精神医学及び精神看護の経験のある教員が、精神疾患、精神医療・看護の歴史及び関連法について講義を行う。
臨床栄養学	1	臨床経験のある医師である教員が、実際の症例を提示しながら臨床栄養学についての授業を行う。
微生物学	1	薬剤師経験のある教員が、手指衛生に関連する演習や院内感染で問題となる薬剤耐性菌に関する講義を行う。
看護技術論	1	看護職としての経験のある教員が、看護技術の基本原則と実践への応用について講義を行う。
看護倫理	1	看護職としての経験のある教員が、現場で生じる倫理的な課題について講義を行う。

科目名	社会福祉学			コード	M002104a			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	必修	2	2	前期				
担当者名	横山 順一							
<b>授業概要</b>								
<p>本講義は、看護・保健の専門職として理解しておくべき福祉に関する基本的知識を獲得するとともに、共に支えあい健康で文化的な生活を送ることができるような地域生活支援のあり方についての学習を通して、福祉ニーズを持つ人の支援のあり方、福祉と看護との関連について理解することを目的とする。具体的には、わが国の社会福祉の基本理念や体系、社会福祉制度・政策や福祉サービスの内容、わが国の福祉を取り巻く諸問題についての講義を行う。</p> <p>【実務系科目】 福祉事務所ケースワーカー等の福祉行政職員や障害福祉サービス事業所を運営する社会福祉法人職員としての実務経験を有する教員が、社会福祉全般にかかわる概論について講義を行う。</p>								
<b>到達目標</b>			<b>成績評価の方法と基準</b>					
社会福祉の理念、歴史、主な制度の概要及び保健・医療・福祉の連携について理解する。			日々の受講態度（20%）と学期末の試験の結果（80%）を総合して評価を行う。					
<b>学習目標</b>			<b>評価項目と割合</b>					
<b>具体的学習目標</b>	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 社会福祉の基礎的な理念・思想について理解する	25	5	0	0	0	0	20	0
(2) 社会福祉制度の基礎的事項について理解する	25	5	0	0	0	0	20	0
(3) 保健・医療・福祉の連携について理解する。	25	5	0	0	0	0	20	0
(4) ソーシャルワークとケアワークの関連や相違点について理解する	25	5	0	0	0	0	20	0
<b>授業の項目と内容</b>			<b>自主学習課題</b>					
<b>(1) 社会福祉の基礎理論</b>								
暮らしの中の社会福祉について概説する。			身近にある社会福祉について考える。					
<b>(2) 社会福祉の理念・思想</b>								
社会福祉の理念及び思想的背景について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(3) 社会福祉の目的と方法</b>								
社会福祉の目的と方法について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(4) わが国の社会福祉の歴史</b>								
日本の社会福祉の歴史について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(5) 社会福祉における権利擁護（基本的人権の尊重）</b>								
基本的人権に基づく利用者の権利擁護、プライバシー保護、守秘義務について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(6) 現代のわが国の社会福祉の動向</b>								
現代のわが国の社会福祉全体の動向について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(7) 高齢者福祉制度</b>								
高齢者に対する支援と介護保険制度について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(8) 障害者福祉制度</b>								
障害者に対する支援と障害者総合支援法にもとづく各制度について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(9) 児童福祉制度</b>								
児童（障害児を含む）やその家族に対する支援と児童・家庭福祉制度について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(10) 地域の福祉</b>								
地域福祉の理念と支援方法について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(11) 社会保障・公的扶助制度（年金制度・手当）</b>								
社会保障の概念と制度体系について年金制度・諸手当を中心に概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(12) 社会保障・公的扶助制度（生活保護制度）</b>								
低所得者に対する支援（生活困窮者自立支援制度を含む）と生活保護制度について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(13) 社会福祉の専門機関</b>								
社会福祉の専門機関について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(14) 社会福祉に関する専門職</b>								
社会福祉の専門職について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>(15) これからの社会福祉（課題と展望）</b>								
これからのわが国の社会福祉の課題と展望及び保健・医療・福祉の協働について概説する。			事前配布するワークシート（事前学習）を完成させる。					
<b>テキスト、参考書、教材</b>			履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)					
テキスト：守本とも子編「看護職をめざす人の社会保障と社会福祉」(株)みらい 授業資料・ワークシート等の資料は随時配布								
<b>受講生へのメッセージ</b>								
看護師、保健師に求められる社会福祉に関する基本的知識を修得しましょう。								

科目名	臨床病態学 I			コード	M002105a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	3	2	前期							
担当者名	吉村 耕一										
<b>授業概要</b> 成人系病態学では、成人期および老年期における看護に必要な疾患の知識を習得することを目標とする。成人期および老年期に発症する疾患について、各論的には内科疾患を中心として臨床現場において遭遇する頻度の高い疾患を臓器別に取り上げて、疾患の病態生理について解説する。外科の対象となる疾患の解説と外科的処置について解説する。内科系疾患について循環器、呼吸器など臓器別に系統講義を実施する。治療学としての外科学総論と外科疾患各論について治療学としての外科学だけではなく、外科疾患の看護に必要な病態について解説する。 【実務系科目】 医師として実務経験を有する教員が、臨床現場でのニーズを踏まえて講義を行う。											
<b>到達目標</b> 病態、診断、検査に関する基本的な用語が理解できる。臓器別の疾患の病態生理が説明できる。内科の慢性疾患の治療を理解できる。外科領域の病態生理について臨床看護と結びつけて理解することができる。				<b>成績評価の方法と基準</b> 下記の評価項目と割合を参照。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 内科系疾患が理解できる				55	8	2	0	2	3	40	0
(2) 外科系疾患が理解できる				25	8	2	0	0	0	15	0
(3) 麻酔科・周術期管理が理解できる				10	2	2	0	0	0	6	0
(4) 内科・外科疾患の治療の概略が理解できる				10	2	2	0	0	0	6	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 脳神経疾患 1</b> 脳血管疾患について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(2) 脳神経疾患 2</b> 神経変性疾患等について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(3) 脳神経疾患 3</b> 認知症、てんかん等について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(4) 感染症</b> ウイルス感染症、細菌感染症について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(5) 呼吸器疾患 1</b> 呼吸器疾患（肺炎、喘息、慢性閉塞性肺疾患等）について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(6) 呼吸器疾患 2</b> 呼吸器疾患（肺がん等）について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(7) 内分泌疾患</b> 下垂体、甲状腺、副腎疾患等について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(8) 代謝疾患</b> 糖尿病、高脂血症等の生活習慣病について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(9) 血液疾患</b> 血液疾患（貧血、白血病、血友病等）について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(10) アレルギー性疾患、膠原病</b> アレルギー性疾患（気管支喘息等）、膠原病（慢性関節リュウマチ、SLE、皮膚筋炎等）について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(11) 循環器疾患 1</b> 心疾患等について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(12) 循環器疾患 2</b> 高血圧、血管疾患等について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(13) 消化器疾患 1</b> 胃・十二指腸、食道、大腸疾患について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(14) 消化器疾患 2</b> 肝・胆・膵疾患について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>(15) 腎臓・尿路疾患</b> 腎臓疾患、尿管・膀胱疾患について学習する。				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>テキスト、参考書、教材</b>				履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)							
(16)麻酔・ICU管理				配布資料と小テストに基づく講義内容の復習							
<b>受講生へのメッセージ</b> 麻酔方法と麻酔下における生体のモニター、さらに集中治療について学習する。											

科目名	保健医療福祉システム論			コード	M002107a			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	必修	2	カリキュラムにより異なります。	後期				
担当者名	西田 隆							
<b>授業概要</b>								
保健・医療・福祉に関する現在の制度の基本的な仕組みやその背景にある考え方について正確に理解できるようにする。そのために、社会保障制度を中心に、関係する制度を理解する。								
【実務系科目】 自治体の在職中に、福祉行政に係る実務経験を持つ講師が、自らの経験に基づき講義を行う。								
<b>到達目標</b>			<b>成績評価の方法と基準</b>					
保健・医療・福祉に関する制度、仕組みを理解する。			講義の際に行う小テストの結果が20%程度、学期末試験の結果が80%程度、両者を加味して評価する。					
<b>学習目標</b>			<b>評価項目と割合</b>					
<b>具体的学習目標</b>	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 保健医療福祉行政について理解する。	20		5				15	
(2) 医療・介護保険制度について理解する。	40		5				35	
(3) その他の社会保険制度について理解する。	20		5				15	
(4) 社会福祉制度について理解する。	20		5				15	
<b>授業の項目と内容</b>			<b>自主学習課題</b>					
<b>(1) 保健医療福祉システムの基本</b>								
保健医療福祉および社会保障制度の全体像を説明する。			講義の内容を復習し、制度の全体像を把握する。					
<b>(2) 医療保険①</b>								
被用者保険について説明する。			被用者保険の仕組みを復習する。					
<b>(3) 医療保険②</b>								
国民健康保険、後期高齢者医療について説明する。			国民健康保険、後期高齢者医療の仕組みを復習する。					
<b>(4) 介護保険①</b>								
介護保険の仕組みについて説明する。			介護保険の仕組みを復習する。					
<b>(5) 介護保険②</b>								
介護サービス給付について説明する。			介護サービス給付の内容を復習する。					
<b>(6) 年金保険</b>								
年金保険について説明する。			年金保険について復習する。					
<b>(7) 雇用保険および労働者災害補償保険</b>								
雇用保険、労働者災害補償保険について説明する。			雇用保険、労働者災害補償保険について復習する。					
<b>(8) 社会福祉の概要</b>								
社会福祉の関係機関、社会福祉法について説明する。			社会福祉の関係機関、社会福祉法について復習する。					
<b>(9) 生活保護</b>								
生活保護法、施策について説明する。			生活保護について復習する。					
<b>(10) 障害者（児）福祉</b>								
障害者（児）福祉施策について説明する。			障害者（児）福祉施策について復習する。					
<b>(11) 児童福祉</b>								
児童福祉施策、少子化対策について説明する。			児童福祉施策について復習し、少子化問題について考察する。					
<b>(12) 医療・保健</b>								
医療法、地域保健、労働保健について説明する。			医療法、地域保健、労働保健について復習する。					
<b>(13) 医療保険のまとめ</b>								
医療保険の基本的事項について再確認する。			医療保険について復習する。					
<b>(14) 介護保険のまとめ</b>								
介護保険について、基本的な事項を再確認する。			介護保険について復習する。					
<b>(15) 総括</b>								
これまでの講義を総括する。								
<b>テキスト、参考書、教材</b>			履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)					
無し								
<b>受講生へのメッセージ</b>								
高齢化社会の中で、医療も、医療機関で完結する医療制度から、地域包括ケアシステムへ移行しています。関連する制度を理解することで、ケアの参考にしてください。								

科目名	リハビリテーション論			コード	M002108a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	1	2	後期							
担当者名	田中 マキ子										
<b>授業概要</b> リハビリテーション療法では、対象者のQOL向上に寄与するためのリハビリテーション各専門職が果たす役割・機能を理解するとともに、看護の役割・責任、看護介入の具体について解説する。 <b>【実務系科目】</b> 看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の実務経験を有する講師陣が、リハビリテーションを展開するために必要な思考・技術に関する内容について講義を行う。											
<b>到達目標</b> リハビリテーションの理念や目的が理解できる。健康障害をもつ人の機能回復、ADLやQOLの向上について何が必要か学習する。リハビリテーション看護の意義や役割・責任について理解でき、実践のための基礎的能力が養われる。				<b>成績評価の方法と基準</b> 学習内容についての数種の課題レポート、並びに試験の結果を総合的に評価する。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) リハビリテーションの理念や目的が理解できる				15	0	0	0	15	0	0	0
(2) 機能回復、ADLやQOLの向上について学ぶ				15	0	0	5	10	0	0	0
(3) リハビリテーション看護の役割や責任が理解できる				30	0	0	10	20	0	0	0
(4) 他職種連携並びに必要な看護技術について学ぶ				40	0	0	10	30	0	0	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1)</b> 1) リハビリテーションの理念と目的 障害のレベルやリハビリテーションの関わり等、リハビリテーションの定義や意義等、リハビリテーションがめざすものが理解できる。								身近な例から、障害とその回復に必要な事柄や職種等を考えてみましょう。			
<b>(2)</b> 2) リハビリテーション医学 リハビリテーション医学の歴史の変遷を学習し、リハビリテーション医学の内容や目標を理解する。担当：野垣 宏								健康障害を持つ人の機能回復やQOL向上に医学がどのような貢献をすると共に役割があるか考えてみましょう。			
<b>(3)</b> 3) リハビリテーション看護の目的と役割 リハビリテーション看護の意義と役割について理解するとともに、介入技術について考えることができる。								医学とは異なる役割や機能は何かについて比較することで、リハビリテーション看護の特徴について、理解を深めていきましょう。			
<b>(4)</b> 4) リハビリテーションチームにおける各専門職の役割 1 理学療法士の役割と機能を理解する。理学療法の実践を知り、理学療法を行う上での観察項目や留意点を学習し、看護との連携について考察する。担当：吉村 静馬								事後学習として、理学療法士と看護職との関係について考えるとともに、どのような連携が可能かまとめてみましょう。			
<b>(5)</b> 5) リハビリテーションチームにおける各専門職の役割 2 言語療法の実践を事例から学び、看護師としての介入役割を理解すると共に、ケア実践への活用方法を検討する。担当：非常勤講師								日常生活の中で確認・体験できることを実践しましょう。特に高齢者等に関わる場面においては実際に活用し講義での内容を振り替えましょう。			
<b>(6)</b> 6) リハビリテーションチームにおける各専門職の役割 3 作業療法士の役割と機能を理解すると共にその実際を知る。また、作業療法を行う上での観察項目や留意点を学習し、看護との連携について考察する。担当：窪田 高志								事後学習として、作業療法士と看護職との関係について考えるとともに、どのような連携が可能かまとめてみましょう。			
<b>(7)</b> 7) リハビリテーション看護の機能1 QOLやADLの向上、自己決定や二次障害予防等リハビリテーションに共通した主に精神面に関する看護の理論や実際やまたその介入方法について学習する。								機能回復やQOL向上に向けての精神的支援の重要性とその方法について、講義を踏まえ、身近な例から検討しましょう。			
<b>(8)</b> 8) リハビリテーション看護の機能2 セルフケアに代表される自立支援の方法として、看護理論に照らし看護の視点や評価、方法について学習する。								セルフケアをどのように促すことができるのか、理論に基づく理解を深めていきましょう。オレム看護論の復習をしておきましょう。			
<b>テキスト、参考書、教材</b> 氏家幸子監修「成人看護学D.リハビリテーション患者の看護」廣川書店 第2版 2008年								履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等) 学期始めのカリキュラム説明会で科目履修条件を提示する			
<b>受講生へのメッセージ</b> これからの社会にあって、種々な意味からリハビリテーションの役割は重要です。広い視野に基づき、本科目の意義と機能、介入方法等、共に学習していきましょう。外部講師を4人迎えます。各回ともに貴重な講義をとなりますので、各回の学びを大切にしましょう。											

科目名	精神保健学			コード	M002110a					
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期						
講義	必修	1	2	後期						
担当者名	中村 仁志、兼行 浩史									
<b>授業概要</b> (オムニバス/8回) (5回) 精神症状(個々の精神症状[思考、感情、意欲と行動])、精神医学的診断(精神医学における診断の手順、理化学的検査、心理検査) 精神障害を知ることによって、精神の健康の保持・増進とは何かについて考える。(3回) 精神医療・保健・看護の歴史をふまえ現在社会の中で行われている精神保健活動について考える。更に精神保健福祉法について解説する。 【実務系科目】 精神医学及び精神看護の経験のある教員が、精神疾患、精神医療・看護の歴史及び関連法について講義を行う。										
<b>到達目標</b> 精神疾患・障害を理解することで人の精神の健康について考えを深めるとともに、精神の問題の社会での受け止め方、支え方を理解し、様々な場、状況において心の健康の回復、保持、増進について考えを深める。			<b>成績評価の方法と基準</b> 試験によって評価を行う(授業態度も加味する)							
<b>学習目標</b>			<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>			配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 精神医療・保健・看護の歴史を理解する			10	5	0	0	0	0	5	0
(2) 精神疾患について理解する			70	5	0	0	0	0	65	0
(3) 精神保健福祉法および関係法規について理解する			20	5	0	0	0	0	15	0
(4)										
<b>授業の項目と内容</b>			<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 各論1(統合失調症)</b> 統合失調症の症状、経過、治療、地域生活支援について学ぶ			<事前学習> テキストの該当箇所を読んでおく							
<b>(2) 各論2(感情障害)</b> うつ病、躁うつ病について、病気の概念、症状、経過、治療法を学ぶ			<事前学習> テキストの該当箇所を読んでおく							
<b>(3) 各論3(神経症性障害)</b> 神経症に含まれる社交不安障害、パニック障害、解離性障害、身体表現性障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)などについて学ぶ			<事前学習> テキストの該当箇所を読んでおく							
<b>(4) 各論4(認知症)</b> 主な器質性精神障害として、認知症の症状、原因となる病気、治療やケアのあり方、在宅生活支援について学ぶ			<事前学習> テキストの該当箇所を読んでおく							
<b>(5) 各論5(その他の精神障害)</b> その他、高次脳機能障害、薬物・アルコール依存症、発達障害、パーソナリティ障害、てんかんなどについて学ぶ			<事前学習> テキストの該当箇所を読んでおく							
<b>(6) 精神医療・保健・看護の歴史</b> 精神障害の考え方、精神障害者に対する処遇について、欧米・日本の歴史から学ぶ			<事前学習> テキストの該当箇所を読んでおく							
<b>(7) 精神保健福祉に関する法律</b> 「精神保健および精神障害者福祉に関する法律」および関連法規についてについて学ぶ			<事前学習> テキストの該当箇所を読んでおく							
<b>(8) まとめ</b> こころの健康についてのまとめ										
<b>テキスト、参考書、教材</b>			履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)							
現代臨床精神医学 大熊輝雄著：金原出版 新体系看護学全書精神看護学①精神看護概論・精神保健 岩崎弥生/渡邊博幸：メヂカルフレンド社			学期始めのカリキュラム説明会で科目履修条件を提示する。							
<b>受講生へのメッセージ</b> 人が精神的に健康に暮らしていく支えをすることも保健・看護の仕事ですが、心の問題はイメージしにくい問題です。そこで自分の心をもう一度振り返って見ましょう。										

科目名	臨床栄養学			コード	M002114a			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	選択	1	3	後期				
担当者名	内田 耕一、乃木 章子							
<b>授業概要</b>								
<p>傷病者や高齢者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養ケア・マネジメントの方法論を概説する。さらに、生活環境や生活習慣を意識した食生活診断、栄養状態の評価・判定、適切な栄養補給や栄養教育の実践、医薬品と栄養・食事との相互作用への配慮等について解説し、実際の医療・保健及び看護の分野でチーム連携のもとに実施することができる栄養ケア計画の立案、実施方法とチェック、そしてモニタリングならびに評価方法について考察する。</p> <p>【実務系科目】 臨床経験のある医師である教員が、実際の症例を提示しながら臨床栄養学についての授業を行う。</p>								
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>				
チーム医療の臨床現場において、傷病者や高齢者の病態および栄養状態に基づき、対象者のQOL向上を目的とした栄養ケアプランの立案・実施・評価について理解できるようになる。				下記の欄を参照のこと				
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>				
<b>具体的学習目標</b>	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 栄養ケア・マネジメントの概念を説明できる	20	0	0	0	20	0	0	0
(2) 食品・食事・食生活に関する知識を活用できる	20	10	0	0	10	0	0	0
(3) 主要疾患の食事療法の基本を説明できる	30	10	0	0	20	0	0	0
(4) チーム医療における看護師の役割を説明できる	30	0	0	0	30	0	0	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>				
<b>(1) 1. 栄養ケア・マネジメントシステムの理解 (乃木)</b>								
医療における臨床栄養学の意義および栄養ケアマネジメントシステムの概要について解説する。				これまで学んだ栄養学や関連科目、臨地実習を振り返り、臨床現場における栄養ケアの意義について考えておく。				
<b>(2) 2. 栄養ケア・マネジメントシステムの実践 (乃木)</b>								
医療における臨床栄養学の意義および栄養ケアマネジメントシステムの実践について紹介する。				テキスト第7章を復習しておく				
<b>(3) 3. 食品・食事・食生活 (乃木)</b>								
病院における栄養ケアを理解するうえで、また予防医学に基づく健康づくりを推進するうえで必要な食品・食事・食生活に関する基本的事項について解説する。				テキスト10章を熟読しておく。				
<b>(4) 4. 病院食の構成と栄養食事療法 (乃木)</b>								
病院における治療食の種類と構成およびその適用について解説する。				テキスト第9章を熟読しておく				
<b>(5) 5. 栄養補給法 (内田)</b>								
栄養補給法のうち、経静脈栄養法および経腸栄養法の特徴と適応について解説する。				テキストを熟読しておく。				
<b>(6) 6. 症例検討 (1) (内田)</b>								
消化器疾患の栄養治療について概説する。重点疾患は肝臓病とし、NST症例について栄養状態の評価とその栄養ケアについて解説する。				テキストを熟読しておく。				
<b>(7) 7. 症例検討 (2) (内田)</b>								
代謝性疾患の栄養治療について概説する。重点疾患は糖尿病とし、NST症例について栄養状態の評価とその栄養ケアについて解説する。				テキストを熟読しておく。				
<b>(8) 8. 症例検討 (3) (内田)</b>								
学校現場で遭遇する可能性の高い疾患である食物アレルギーの栄養治療について概説する。				テキストを熟読しておく。				
<b>テキスト、参考書、教材</b>				履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)				
テキスト：系統看護学講座 専門基礎(3) 栄養学医学書院)、必要に応じてプリント等				学期始めのカリキュラム説明会で科目履修条件を提示する。				
<b>受講生へのメッセージ</b>								
限られた時間数ですので、どのような授業にしたらいかがに考えながら進めていきたいと思っています。								

科目名	微生物学			コード	M002206a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	1	1	後期							
担当者名	満手 朝子										
<b>授業概要</b> 微生物界の概要、それぞれの生物学的特徴を講義した上で、環境変化に伴って遺伝情報が変化していくことの原理や危険性、環境と遺伝子発現の関連、人と微生物に攻防の歴史やそのメカニズムについて講義する。 【実務系科目】 薬剤師経験のある教員が、手指衛生に関連する演習や院内感染で問題となる薬剤耐性菌に関する講義を行う。											
<b>到達目標</b> 微生物の構造と機能についての理解や、遺伝情報の変化、病原性、発症のメカニズムと基本的生体防御機構が説明できる。				<b>成績評価の方法と基準</b> 成績評価表							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 微生物界の構成と特徴が説明できる				20	0	0	5	5	0	10	0
(2) 遺伝子の発現調節機構が説明できる				30	0	0	5	5	0	20	0
(3) 微生物の環境適応と遺伝情報変化が説明できる				30	0	0	5	5	0	20	0
(4) 生体防御機構と病原因子の関係が説明できる				20	0	0	5	0	0	15	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 微生物学の範囲</b>				微生物学で扱うものの範囲、歴史について学習する							
微生物学のための基礎化学				原核生物、真核生物それぞれ代表的な細胞構造を図示し、説明できるようにする							
<b>(2) 微生物の化学的性質</b>				生命体を構成する分子の構造や特徴を理解し覚える							
<b>(3) 代謝の基礎</b>				DNA複製の原理、細胞分裂に伴う細胞内現象を分子レベルで説明する							
<b>(4) 微生物の構造と機能</b>				転写、翻訳、DNA複製が分子レベルで説明できる							
単細胞生物が持つ各種器官の構造と機能について、学習する				生息環境によって合理的に出来ている微生物の諸器官の機能について、説明できる							
<b>(5) 感染症の機序</b>				感染の必要因子							
感染の必要因子				感染成立のための必要因子について説明できる							
<b>(9) 病原微生物の特徴</b>				細菌構造と臨床上の重要性							
細菌構造と臨床上の重要性				微生物の性質が普遍的でない理由が説明できる							
<b>(10) 制御と治療</b>				消毒薬・抗生物質							
消毒薬・抗生物質				遺伝子の発現調節機構について説明できる							
<b>(12) ウィルスの構造と感染サイクル</b>				ウィルスの病原性、寄生虫・真菌感染症							
ウィルスの病原性、寄生虫・真菌感染症				ウィルス感染、寄生虫、真菌感染の特徴を説明できる							
<b>(13) 宿主の防御機構</b>				自然免疫応答							
自然免疫応答				抗原認識から始まる生体防御機構の一連の流れが説明できる							
<b>(14) 感染防御機構</b>				獲得免疫応答							
獲得免疫応答				獲得免疫応答の機構が説明できる。							
<b>テキスト、参考書、教材</b>				履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)							
教科書：微生物学(医学書院)				参考書「医科細菌学」南江堂、「標準微生物学」医学書院、ブラック微生物学(丸善)、マッキー生化学、遺伝子の分子生物学、遺伝子他							
<b>受講生へのメッセージ</b>				学習目標を立てて学習する習慣を身につけましょう。授業外学習の課題等、提出物は期限を厳守してください。ポータルを活用してください							

科目名	看護技術論			コード	M003102a			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	必修	1	1	後期				
担当者名	井上 真奈美、丹 佳子、藤本 美由紀、佐々木 満智子、白蓋 真弥、家入 裕子							
<b>授業概要</b> 看護技術の特性を説明し、看護を科学的、理論的に実践できる技術の基礎理論を解説する。看護技術の概念、構成要素、原理・原則など、看護の実践に必要な理論と方法を概説するとともに、事例演習や技術演習・実験などを通して詳説する。看護の体験が少ない学生への講義となるため、できるだけ、学生の日常生活に身近な話題をとりあげながら進めていく。技術演習において、グループごとに学生の技術の安全面などを中心に指導する。実際の看護技術を通じて、看護技術の基本原則について理解を深めることを目的に行う。 【実務系科目】 看護職としての経験のある教員が、看護技術の基本原則と実践への応用について講義を行う。								
到達目標			成績評価の方法と基準					
看護実践に必要な基礎技術の原理と特性を理解し、看護技術を行う上で、これらの理論をふまえて行うことができることを目標とする。			事前学習・課題提出（授業への参加態度含む）50%、期末筆記試験50%とする。具体的学習目標との関連については、若干の変更が生じる場合もあるので詳細は授業中に示す					
学習目標			評価項目と割合					
具体的学習目標	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 看護実践に必要な基礎技術の原理と特性が理解できる。	40	0	0	0	15	0	25	0
(2) 技術の原理と特性をふまえて実際に技術が実施できる。	20	10	0	0	10	0	0	0
(3) 体位変換、移動の援助の必要性、方法が理解でき、学生相互で実施できる。	40	5	0	0	10	0	25	0
(4)								
授業の項目と内容			自主学習課題					
(1) 看護技術の概念と特性								
看護技術の概念、構成要素、原理・原則など、看護の実践に必要な理論と方法を学ぶ。			事前課題：テキストの該当ページを読む					
(2) 看護技術の基本原則・安全								
人間にとっての安全、患者の療養生活の安全を阻害する要因について解説するとともに、感染防止の技術としての手洗い、手袋の着脱の演習を行う。			事後課題：手洗いを行った後に、ハンドピカを用いて観察し、洗い残しの部分についてレポートする。					
(3) 動作の経済性とボディメカニクス								
ボディメカニクスに関する原理と人間工学的な視点から、事前学習（実験）をもとに「動作の経済性」について考え、看護技術に応用できる原理・原則を学ぶ。			事前課題：ワークシートの実験をグループごとに行う					
(4) 看護技術の基本原則を技術を通して考える（体位と体位変換）								
人間の基本的な姿勢と同一体位による弊害について解説するとともに、5つの人間の基本動作の特徴と援助のポイントを概説し、体位変換のデモンストレーションを行う。			事後課題：演習した技術について習得しておく					
(5) 看護技術の基本原則を技術を通して考える（体位と体位変換の実際）								
体位変換の実際を演習する。			事前課題：前回の技術について習得しておく					
(6) 看護技術の基本原則を技術を通して考える（移乗・移動・移送）								
看護技術の原理・原則などが、移動・移送の技術にどう反映されているかについて例をもとに学ぶ。			事前課題：ビデオ視聴、ワークシート課題。事後課題：次回演習計画をグループで立てる。					
(7) 看護技術の基本原則を技術を通して考える（移乗・移動・移送の実際）								
ベッドから椅子への移乗の援助、歩行介助のデモンストレーションを行うとともに、車いすやストレッチャーの操作方法と、移動のための援助の基本について学ぶ。			事前課題として技術の復習。事後課題として学んだことをまとめる。					
(8) オリエンテーション								
授業の概要を説明するとともに、看護技術の学内演習を今後行うにあたり実習室や設備の使い方、学習の進め方について講義する。			事前課題：シラバスに目をとめておく。					
テキスト、参考書、教材			履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)					
深井喜代子・前田ひとみ編；基礎看護学テキスト、南江堂、その他。			学期始めのカリキュラム説明会で科目履修条件を提示する					
受講生へのメッセージ								
看護学科に入学して、初めて学ぶ援助技術の科目です。看護技術の特性を理解し、援助に生かしましょう。なお、事前事後学習・評価の詳細は、各回の授業中に示します。								

科目名	看護倫理			コード	M003103a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	1	2	後期							
担当者名	井上 真奈美、小迫 幸恵、中村 仁志、藤村 孝枝、家入 裕子										
<b>授業概要</b> 看護倫理に関する基礎知識を概説し、基礎知識を基に臨床場面における問題状況に対する感受性とコミュニケーションの重要性について解説する。さらに事例を提示し、小児、成人、老年の事例を用いて、対象や状況によって、さまざまな倫理的問題が生じることを紹介するとともに、具体的倫理的葛藤場面に遭遇した際の医療者や看護者が持つ問題に対する分析と対処法を考える上で必要な方法論が見いだせるように、情報の整理や対策の検討をグループワークや演習を通して考えるように配慮する。 【実務系科目】 看護職としての経験のある教員が、現場で生じる倫理的な課題について講義を行う。											
<b>到達目標</b> 様々な価値や信念があることに気づき、価値に対して関心や感受性を深めるとともに、看護・医療における倫理的課題の対応について考えることができる。				<b>成績評価の方法と基準</b> 下記の欄を参照のこと							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 看護の倫理に関する基本的知識を理解する				30	5	10	0	15	0	0	0
(2) 倫理的意思決定を行うための枠組みを理解する				30	5	10	0	15	0	0	0
(3) 具体的事例における倫理的課題を見いだすことができる				20	0	0	0	20	0	0	0
(4) 倫理的課題への対応を考えることができる。				20	0	0	0	20	0	0	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
(1) 看護における倫理の必要性と基本的知識											
社会や医療における看護の現状を知り、看護に求められる課題を学ぶ。				1年次に履修した「生命と倫理」を思い起こし、本授業の復習をしましょう。1年次に履修した「生命と倫理」の復習をしましょう。							
(2) 看護の倫理における基本的知識と倫理的意思決定のための枠組み①											
倫理理論、倫理原則、倫理的概念等について学ぶ。倫理規定等について概観し、「看護者の倫理綱領」について学ぶ。倫理的意思決定を行うための枠組みを学び、実際に活用してみる。				ICNの「看護師の倫理綱領」についても理解を深めましょう。倫理的意思決定を行うための枠組みについて理解を深めましょう。							
(3) 看護の倫理における基本的知識と倫理的意思決定のための枠組み②											
倫理理論、倫理原則、倫理的概念等について学ぶ。倫理規定等について概観し、「看護者の倫理綱領」について学ぶ。倫理的意思決定を行うための枠組みを学び、実際に活用してみる。倫理原則の理解について、小テストを行う。				本授業を振り返り、さらに深めて考えてみましょう。							
(4) 精神看護と倫理											
精神看護領域の倫理的葛藤場面について検討する。				本授業を振り返り、さらに考えを深めましょう。							
(5) 地域看護と倫理											
地域・在宅の看護における倫理的葛藤場面について検討する。				本授業を振り返り、さらに深めて考えてみましょう。							
(6) 感染症と倫理											
HIV、B型肝炎等の感染症における倫理問題について考える。				本授業を振り返り、さらに考えを深めましょう。							
(7) 小児看護と倫理（1）											
子どもの権利の歴史を概観し、小児看護の倫理的葛藤場面について検討する。				事前課題および本授業を振り返り、さらに考えを深めましょう。小児看護学Ⅰのテキストの該当ページを熟読しましょう。							
(8) 小児看護と倫理（2）											
子どもの権利の歴史を概観し、小児看護の倫理的葛藤場面について検討する。				事前課題および本授業を振り返り、さらに考えを深めましょう。小児看護学Ⅰのテキストの該当ページを熟読しましょう。							
<b>テキスト、参考書、教材</b>				履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)							
看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂				学期初めのカリキュラム説明会で科目履修条件を提示する							
<b>受講生へのメッセージ</b>											
意見交換を活発に行い、様々な価値を知り、考えに深みや幅を持たせましょう。											

## 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（山口県立大学）

### 看護栄養学部 栄養学科

2019年度：合計87単位（全学教育25単位）（他学部等共通4単位）

省令で定める単位数等の基準数相当分（以下14単位分）

科目名	単位数	授業内容
臨床医学入門	2	医師である教員が、臨床経験を活かし、臨床医学に関係する内容を盛り込みながら授業を行う。
臨床病態学	2	医師である教員が、臨床経験を活かし、臨床病態に関係する内容を盛り込みながら授業を行う。
臨床治療学	2	医師である教員が、臨床経験を活かし、臨床に関係する薬剤に関係する内容を盛り込みながら授業を行う。
食品衛生学	2	薬剤師経験のある教員が、食品衛生業務に係る組織や関連法について講義する。
ライフステージ栄養学Ⅰ	2	管理栄養士として社会福祉施設並びに介護老人福祉施設に勤務した経験を持つ教員が、実務経験を基に、「高齢期の身体特性と栄養」について講義を行う。
栄養教育論	2	県保健所の管理栄養士の実務経験を持つ教員が、自らの経験を基に、栄養教育現場における活用を想起させながら行動科学理論の理解に導く授業を行う。
給食経営管理論Ⅰ	2	管理栄養士として病院に勤務した経験を持つ教員が、医療機関の実務経験をもとに給食経営管理について講義を行う。

科目名	臨床医学入門			コード	N002309a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	2	2	後期							
担当者名	内田 耕一										
<b>授業概要</b>											
<p>栄養管理はすべての医療の基盤をなすものである。近年、病院の中に栄養サポートチーム（NST）が導入されて患者の栄養管理を行うようになってきた。管理栄養士は医師、看護師、薬剤師、検査技師などとともにNSTの主要な構成員となることから、管理栄養士も臨床医学に関する基礎知識を身につけておく必要がある。この講義では、患者から話を聞き、診察し、検査し、診断し、治療する方法について概説する。講義内容は、国家試験出題基準「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」のうち、「疾患診断の概要」と「疾患治療の概要」に準拠している。</p> <p>【実務系科目】            医師である教員が、臨床経験を活かし、臨床医学に関する内容を盛り込みながら授業を行う。</p>											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
1. 医療面接と身体診察の方法について理解する。 2. 主な症候の病態を理解する。 3. 臨床検査の種類と実施の目的、解釈方法を理解する。 4. 疾患治療の種類、方法を理解する。				小テスト（40%）、確認テスト（下記授業態度）（40%）、学習態度（下記その他）（20%）、により評価する。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 医療面接と身体診察の方法について説明できる				25	10	10	0	0	0	0	5
(2) 主な症候の病態について説明できる				25	10	10	0	0	0	0	5
(3) 臨床検査について説明できる				25	10	10	0	0	0	0	5
(4) 疾患治療の種類、方法について説明できる				25	10	10	0	0	0	0	5
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 1. 疾患診断の概要①</b>											
疾患の診断医は、できるだけ多くの情報を集めることが必要である。通常は一般的診察に加えて臨床検査を行う。どのような情報が得られるのか学ぶ。				A 一般的診察 1.問診 2.身体診察 B 主な症候 1.血圧、脈拍、呼吸、体温							
<b>(2) 2. 疾患診断の概要②</b>											
2.全身症候 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、不穏、痙攣、めまい、脱水、浮腫について学ぶ				全身症候について教科書を読んでくる							
<b>(3) 3. 臨床検査①</b>											
1.種類と特性 2.検体の種類・採取方法 3.基準値 4.一般臨床検査 5.血液学検査				教科書を読んでこよう							
<b>(4) 4. 臨床検査②</b>											
6.生化学検査 7.免疫学検査 8.微生物学検査 9.生体機能検査 10.画像検査				教科書を読んでこよう							
<b>(5) 5. 主な症候①</b>											
臨床の現場でよく遭遇する自覚症状と他覚症状について概説する。				浮腫、脱水、嚥下困難、食欲不振、腹部膨満、便秘、下痢							
<b>(6) 6. 主な症候②</b>											
臨床の現場でよく遭遇する自覚症状と他覚症状について概説する。				黄疸、吐血、下血、咳嗽、血痰、咯血、喘鳴、呼吸困難、ショック、チアノーゼ、全身倦怠感、意識障害、けいれん、めまい、頭痛、運動麻痺、動悸、排尿異常							
<b>(7) 7. 臨床検査の考え方</b>											
臨床検査の考え方について概説する。				検査の種類と分類、基準値、感度、特異度、ROC曲線、臨床判断値							
<b>(8) 8. 主な臨床検査①</b>											
末梢血検査、肝機能検査、腎機能検査について概説する。				赤血球、白血球、血小板、AST、ALT、アルブミン、尿素窒素、クレアチニン、クレアチニン・クリアランス							
<b>(9) 9. 主な臨床検査②</b>											
電解質、酸塩基平衡、その他の検査について概説する。				高Na血症、低Na血症、高K血症、低K血症、高Ca血症、低Ca血症、アシドーシス、アルカローシス							
<b>(10) 10. 主な臨床検査③</b>											

生活習慣病の臨床検査と診断基準を概説する。	肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧症、メタボリックシンドローム
<b>(11) 1 1. 疾患治療の概要</b>	
主要な治療法について概説する。	原因療法、対症療法、保存療法、根治療法、食事療法、運動療法、薬物療法、輸血・輸液療法、手術療法、放射線療法、血液浄化療法、臓器移植、人工臓器
<b>(12) 1 2. 栄養補給法</b>	
栄養補給法について概説する。	経口栄養法、経腸栄養法、静脈栄養法
<b>(13) 1 3. 運動療法、薬物療法</b>	
運動療法、薬物療法、主な疾患の治療薬について概説する。	有酸素運動、無酸素運動、メディカルチェック、糖尿病の薬、高血圧の薬、脂質異常症の薬
<b>(14) 1 4. ターミナルケアとクリティカルケア</b>	
ターミナルケアとクリティカルケアについて概説する。	心臓死、脳死、緩和医療、火傷、集中治療、心肺蘇生法
<b>(15) 1 5. 疾患による細胞・組織の変化</b>	
炎症と創傷治癒、変性、壊死とアポトーシス、萎縮、肥大と過形成、犀星と再生医療、死	組織の復習してこよう
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
教科書は臨床病態学と同じ「人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」医歯薬出版株式会社 を使用します。 適宜、プリントをお渡しします。	
<b>受講生へのメッセージ</b>	
疑問を後に残さず、授業中に解決するようにしよう。そのために積極的に質問しよう。	

科目名	臨床病態学			コード	N002311a						
授業形態	履修形態	単位数	年次		開講期						
講義	必修	2	カリキュラムにより異なります。		後期						
担当者名	内田 耕一										
<b>授業概要</b>											
日頃、管理栄養士が会うことが多い疾患を中心に、患者の栄養指導を行なうときに必要な病態・検査方法・診断・治療など基本的な医学知識を学ぶ。											
【実務系科目】 医師である教員が、臨床経験を活かし、臨床病態に関係する内容を盛り込みながら授業を行う。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
各種疾患の病態、検査方法、診断方法、治療法の概略について説明できる。				確認テスト（下記授業態度の項目）（40%）、小テスト（40%）、学習態度（下記その他の項目）（20%）の成績により評価する。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 疾患の病態を説明できる				25	10	10	0	0	0	0	5
(2) 疾患の検査方法を説明できる				25	10	10	0	0	0	0	5
(3) 疾患の診断方法を説明できる				25	10	10	0	0	0	0	5
(4) 疾患の治療法の概略を説明できる				25	10	10	0	0	0	0	5
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 1. 飢餓、肥満症とメタボリックシンドローム、</b>											
飢餓、肥満症とメタボリックシンドローム、脂質異常症の病態、診断、治療について学ぶ。				食欲の調節、インスリン抵抗性							
<b>(2) 2. 糖尿病①</b>											
糖尿病の病態、診断、治療について学ぶ。				インスリン、血糖値の調節、1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、細小血管合併症、大血管合併症							
<b>(3) 3. 糖尿病②</b>											
糖尿病の病態、診断、治療について学ぶ。				食事療法、運動療法、薬物療法、インスリン療法							
<b>(4) 4. 高尿酸血症、先天性代謝異常</b>											
高尿酸血症、先天性代謝異常の病態、診断、治療について学ぶ。				プリン体代謝、高尿酸血症・痛風、フェニルケトン尿症、ホモシスチン尿症、メーブルシロップ尿症、ガラクトース血症							
<b>(5) 5. 口腔疾患・摂食嚥下障害・胃食逆流症</b>											
口腔疾患・摂食嚥下障害・胃食逆流症の病態、診断、治療について学ぶ。				胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍、							
<b>(6) 6. 胃十二指腸潰瘍・潰瘍性大腸炎・加齢病</b>											
胃十二指腸潰瘍・潰瘍性大腸炎・加齢病の病態、診断について学ぶ。				過敏性腸管症候群、タンパク質漏出喪失性胃腸障害、クローン病、潰瘍性大腸炎							
<b>(7) 7. 慢性肝炎・肝硬変・胆膵疾患</b>											
慢性肝炎・肝硬変・胆膵疾患の治療について学ぶ。				急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、胆石症、胆嚢炎、急性膵炎、慢性膵炎							
<b>(8) 8. 循環器の疾患</b>											
循環器の疾患の病態、診断、治療について学ぶ。				狭心症、心筋梗塞、心不全							
<b>(9) 9. 腎疾患①</b>											
CKDを中心とした腎疾患の病態、診断、治療について学ぶ。				CKD							
<b>(10) 10. 腎疾患②</b>											
急性腎不全、慢性腎不全、透析といった腎疾患の病態、診断、治療について学ぶ。				糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、血液透析、腹膜透析							
<b>(11) 11. 内分泌疾患</b>											
内分泌疾患の病態、診断、治療について学ぶ。				下垂体疾患、甲状腺機能亢進症・低下症、副甲状腺疾患、副腎疾患、アルドステロン症、クッシング症候群							
<b>(12) 12. 神経・精神系の疾患</b>											
主な神経・精神系の疾患の病態、診断、治療について学ぶ。				脳卒中、認知症、パーキンソン病、神経性食欲不振症、神経性大食症、アルコール依存症、薬物の乱用							
<b>(13) 13. 肺疾患</b>											
COPDを中心とした肺疾患の疾患の病態、診断、治療について学ぶ。				慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、気管支炎、肺炎、肺結核							

<b>(14)</b> 14. 血液・造血器・リンパ系	
貧血・血液のがんの病態、診断、治療について学ぶ。	鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血
<b>(15)</b> 15. 運動器系の疾患、感染症	
運動器系の疾患、感染症の病態、診断、治療について学ぶ。	骨粗鬆症、骨軟化症、くる病、変形性膝関節症、細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症、性行為感染症、院内感染症、新興感染症、再興感染症、AIDS
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
教科書は臨床医学入門と同じ「人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療 第2版 竹中 優 編」 医 歯薬出版株式会社	
<b>受講生へのメッセージ</b>	
疑問は後に残さず、授業中に解決するようにしよう。そのために積極的に質問しよう。	

科目名	臨床治療学			コード	N004007a							
授業形態	履修形態	単位数	年次		開講期							
講義	選択	2	カリキュラムにより異なります。		前期							
担当者名	内田 耕一											
<b>授業概要</b>												
患者の栄養指導を行う際、病気および薬物療法を熟知しておく必要がある。特に薬剤の作用機序とその副作用による栄養障害等への対応についての知識を習得し、適切な栄養計画、患者指導を行う時の医学知識を学ぶ。												
【実務系科目】 医師である教員が、臨床経験を活かし、臨床に関係する薬剤に関係する内容を盛り込みながら授業を行う。												
<b>到達目標</b>					<b>成績評価の方法と基準</b>							
各種疾患の病態、診断、特に薬物治療について説明でき、病態に合わせて投与された薬に対する生体の反応を正しく把握する知識と副作用などの出現を見いだすことができる観察力を理論的に身につける。					小テスト（中間試験）（40%）、確認テスト（その他の項目）（40%）、学習態度（20%）の成績により評価する。							
<b>学習目標</b>					<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>					配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 疾患の病態を説明できる					25	5	10	0	0	0	0	10
(2) 疾患の診断を説明できる					25	5	10	0	0	0	0	10
(3) 疾患の薬物治療を説明できる					25	5	10	0	0	0	0	10
(4) 薬物の副作用と栄養障害について説明できる					25	5	10	0	0	0	0	10
<b>授業の項目と内容</b>					<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 1.総論 食品－医薬品の相互作用</b>												
食品と医薬品の相互作用について学ぶ					食品と医薬品の相互作用とは何か、健康食品と医薬品の相互作用、栄養機能食品と医薬品							
<b>(2) 2.消化器系の疾患（1）</b>												
主な消化管疾患の薬物治療と栄養について学ぶ					上部消化管作動薬、下部消化器疾患の薬（クローン病、潰瘍性大腸炎）							
<b>(3) 3.消化器系の疾患（2）</b>												
主な肝胆膵疾患の薬物治療と栄養について学ぶ					肝疾患の薬剤（肝不全用経腸栄養剤、分岐鎖アミノ酸）膵疾患の薬剤							
<b>(4) 4.循環器系の疾患（1）</b>												
高血圧症、心不全等の薬物治療と栄養について学ぶ					Ca拮抗薬、心不全治療薬について							
<b>(5) 5.循環器系の疾患（2）</b>												
動脈硬化症、冠動脈疾患の薬物治療と栄養について学ぶ					抗狭心症薬等について							
<b>(6) 6.腎疾患</b>												
主な腎疾患の薬物治療と栄養について学ぶ					慢性腎不全治療薬について							
<b>(7) 7.糖尿病</b>												
糖尿病の薬物治療と栄養について学ぶ					糖尿病治療薬について							
<b>(8) 8.脂質異常症</b>												
脂質異常症の薬物治療と栄養について学ぶ					脂質異常症の治療薬について							
<b>(9) 9.高尿酸血症・痛風と先天性代謝異常</b>												
高尿酸血症・痛風と先天性代謝異常の薬物治療と栄養について学ぶ					高尿酸血症治療薬について							
<b>(10) 10.内分泌系の疾患</b>												
主な内分泌系の薬物治療と栄養について学ぶ					内分泌疾患治療薬について							
<b>(11) 11.神経・精神系の疾患</b>												
主な神経・精神系の疾患の薬物治療と栄養について学ぶ					抗てんかん薬等について							
<b>(12) 12.呼吸器系の疾患、血液系の疾患</b>												
主な呼吸器系と血液系の疾患の薬物治療と栄養について学ぶ					呼吸器系・血液系治療薬について							
<b>(13) 13.運動器系の疾患、肥満症、感染</b>												
主な運動器系の疾患と肥満症、感染の薬物治療と栄養について学ぶ					肥満症治療薬、抗生物質について							
<b>(14) 14.免疫・アレルギーの疾患、悪性腫瘍</b>												
主な免疫・アレルギー疾患、悪性腫瘍					免疫抑制剤、抗癌剤について							

<b>(15) 15. 栄養管理に必要な漢方薬</b>	
漢方薬と栄養について学ぶ	漢方薬の副作用について
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
特に指定しません。プリント主体で行います	
<b>受講生へのメッセージ</b>	
実臨床において必要な知識となります。疑問点は質問をしてその場で解決しましょう	

科目名	食品衛生学			コード	N002408a						
授業形態	履修形態	単位数	年次		開講期						
講義	必修	2	2		後期						
担当者名	溝手 朝子、山崎 あかね										
<b>授業概要</b>											
<p>食べ物と健康の分野のうち、特に食べ物の安全性の重要性を認識し、衛生管理の適切な方法を理解するため、食品衛生関連法規や衛生管理、食品による中毒、感染、添加物、食品汚染、薬物代謝にかんする基礎知識を学ぶ。</p> <p>『「知識の定着を図る」および「知識を活用する力を身につけさせる」という点を重視して、授業を構成する。』</p> <p>【実務系科目】 薬剤師経験のある教員が、食品衛生業務に係る組織や関連法について講義する。</p>											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
食品衛生関連法規の内容、食中毒や食品感染、汚染物質や添加物の危険性等について、説明できると共に、適切な衛生管理法を適用できる。				授業外学習、試験で評価する							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 食中毒の原因と回避法が説明できる				25	0	0	5	0	10	10	0
(2) 食品汚染物質、経路、毒性が説明できる				25	0	0	5	0	10	10	0
(3) 薬物代謝や体内動態について説明できる				25	0	0	5	0	10	10	0
(4) 法規の解釈と新たな安全問題について予測できる				25	0	0	5	0	0	20	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 食品衛生行政</b>											
対象と範囲、食品衛生監視員と食品衛生管理者				それぞれの資格の業務内容や要求される能力について確認する							
<b>(2) 食品衛生関連法規の理解</b>											
安全性の考え方、食品衛生関連法規				あ北品衛生関連法規の構成を整理しよう							
<b>(3) 食中毒</b>											
食中毒の定義及び化学物質起因の食中毒の特性、危険性について				食中毒の発生状況について、原因別に調べてみよう							
<b>(4) 食中毒と食品汚染</b>											
微生物食中毒の種類や原因菌、及び危険性主な消化器系感染症、食品由来寄生虫感染、BSE				近年増加している微生物による食品感染の事例を挙げ、原因、発症機序、危険性について調べる							
<b>(5) 食品汚染物質</b>											
カビ毒、化学物質、成分変化によって生じる有害物質について				養殖や、家畜飼料として使用される抗生物質をはじめとする添加物について、その現状と危険性について考察する							
<b>(6) 食品の変質</b>											
腐敗の原理、食品の変質原因と防止法				変質防止処理とその限界について考察する							
<b>(7) 食品添加物</b>											
食品添加物の長短所、種類と様と、安全性評価について				一週間にどれくらいの種類や量の添加物を摂取しているか、身の回りの食品を点検してみよう							
<b>(8) 薬物代謝変動</b>											
薬物代謝酵素活性に変動をもたらす要因(内的要因、外的要因)について				薬物代謝に影響を与える要因を複合的に考えてみよう							
<b>(9) 薬物代謝と毒性</b>											
人間の生活環境に存在する膨大な化学物質の有害作用と作用機序、薬物作用の発現機構、生つくあいの防御機構、体内代謝と臓器毒性				食品の保存、食品の増産と各府、疾病治療など、ひとの健康増進や快適な生活維持に重要な役割を果たしている化学物質の危険性について、考察する							
<b>(10) 薬物体内動態</b>											
クリアランス概念に基づく薬物代謝の重要性と薬物代謝動態の予測				薬物投与部位からの吸収、体内分布、代謝、排泄のうち、薬物代謝は最重要因子である。代謝や代謝に影響を及ぼす諸因子について、学習する。							
<b>(11) 食品の器具と容器包装</b>											
素材と衛生、素材による環境汚染				容器のLCAや生分解性プラスチックの可能性について考えてみよう							
<b>(12) 食品衛生管理</b>											
HACCP,食品工場における一般衛生管理事項、過程における衛生管理				衛生管理施設の充実と事故の発生について、考えてみる							

<b>(13) 新しい食品の安全性問題 1</b>	
有機栽培食品、遺伝子組換え食品	遺伝子組換え食品について議論しよう
<b>(14) 新しい食品の安全性問題 2</b>	
流通と安全性、放射能照射食品	我が国の自給率、他国への食糧依存度、環境負荷様、多角的視野から、利便性や危険性、さらに防衛策を議論する
<b>(15) 大量調理衛生管理マニュアルに規定される事柄</b>	
給食経営管理へのステップとして大量調理衛生管理マニュアルで規定されている事柄の具体的手法や評価方法について学ぶ。	事前にDLして、内容を把握しておく
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
食べ物と健康 食品の安全 (南江堂)	
<b>受講生へのメッセージ</b>	

科目名	ライフステージ栄養学 I			コード	N003203a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	2	2	後期							
担当者名	弘津 公子										
<b>授業概要</b>											
心身の成長期である乳児期から青年期における栄養の役割を学ぶことにより、健康的に成長するための栄養とは何かについて考える。さらに、成人期から高齢期にかけての加齢に伴う身体の変化と栄養の役割について学び、健康に老いるための栄養の役割について考える。											
【実務系科目】 管理栄養士として社会福祉施設並びに介護老人福祉施設に勤務した経験を持つ教員が、実務経験を基に、「高齢期の身体特性と栄養」について講義を行う。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
ライフステージ別に身体の形態的、機能的特徴が説明できる。各ライフステージにおける生活環境、食生活や栄養素の摂取の特徴を理解し、それに基づいた栄養マネジメント等ができる。				下記の欄を参照のこと							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) ライフステージ別の形態的・機能的特性が説明できる。				25	10	0	0	5	0	10	0
(2) ライフステージ別の栄養・食生活の特性が説明できる。				25	10	0	0	5	0	10	0
(3) ライフステージ別の栄養アセスメントが説明できる。				25	10	0	0	5	0	10	0
(4) ライフステージ別の特徴的な疾病が説明できる。				25	10	0	0	5	0	10	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 日本人の食事摂取基準 (2015年版) 総論</b>											
ライフステージ別栄養学に際し、日本人の食事摂取基準(2010年版)の総論を講義する。				日本人の食事摂取基準(2015年版) P1-42を、復習する。							
<b>(2) 日本人の食事摂取基準 (2015年版) 活用</b>											
ライフステージ別栄養学に際し、日本人の食事摂取基準(2010年版)の活用を講義する。				日本人の食事摂取基準(2015年版) P43-117を、復習する。							
<b>(3) 生活活動とエネルギー代謝</b>											
生活活動とエネルギー代謝等について、講義する。				基礎栄養学を復習する。							
<b>(4) 成長・発達・加齢</b>											
成長・発達・加齢に伴う身体的、精神的変化と栄養について、講義する。				応用栄養学 P69-80を熟読する。							
<b>(5) 成人期(若年成人)</b>											
成人期(若年成人期)の特性、生活習慣、食生活、栄養摂取状況について講義する。				応用栄養学 P209-249を熟読する。							
<b>(6) 妊娠期</b>											
妊娠期の母体変化、妊娠と疾病、栄養ケア等について、講義する。				応用栄養学 P81-95を熟読する。							
<b>(7) 授乳期</b>											
授乳期の生理的特徴、疾病、栄養ケア等について、講義する。				応用栄養学 P96-116を熟読する。							
<b>(8) 新生児期・乳児期</b>											
新生児期・乳児期の生理的特徴、疾病、栄養ケア等について、講義する。				応用栄養学 P117-136を熟読する。							
<b>(9) 乳児期の栄養補給法</b>											
乳児期の栄養補給法(母乳・人工乳・授乳方法・離乳)について、講義する。				応用栄養学 P136-149を熟読する。							
<b>(10) 幼児期</b>											
幼児期の成長、発達、生活習慣等について、講義する。				応用栄養学 P151-174を熟読する。							
<b>(11) 学童期</b>											
学童期の成長、発達、生活習慣等および学校給食等について、講義する。				応用栄養学 P175-207を熟読する。							
<b>(12) 思春期</b>											
思春期の成長、発達、生活習慣、栄養ケア等について、講義する。				応用栄養学 P180-207を熟読する。							
<b>(13) 成人(中年期)・更年期</b>											
成人期(中年期)、更年期の特性、生活習慣、食生活、栄養摂取				応用栄養学 P209-249を熟読する。							

取状況等について、講義する。	
<b>(14) 高齢期</b>	
高齢期の加齢に伴う身体的変化、精神的変化とQOL、疾病と病態等について講義する。	応用栄養学P251-281を熟読する。
<b>(15) 高齢期</b>	
虚弱な高齢者について、身体的特徴、疾病と病態等について講義する。	応用栄養学251-281を熟読する。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
テキスト：応用栄養学（南江堂）、栄養管理プロセス基礎と概念（医歯薬出版） 参考書：日本人の食事摂取基準2015年版(第一出版)、PDCAサイクルと食事摂取基準による栄養管理・給食管理（建帛社）	レポートの評価基準：自主学習の成果はレポートに反映するよう にします。 自主学習態度の評価基準：講義中の課題への取り組みや質疑応 答等を評価します。
<b>受講生へのメッセージ</b>	
各ライフステージを、1コマ毎に学びます。 事前に、該当箇所を熟読して受講するようにして下さい。	

科目名	栄養教育論			コード	N003301a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	2	2	後期							
担当者名	水津 久美子										
<b>授業概要</b> ライフステージや、健康状態、ライフスタイル等に応じた適切な栄養教育を行ううえで、目的に応じた理論と技法を適切に選択していくための基礎を理解する。 【実務系科目】 県保健所の管理栄養士の実務経験を持つ教員が、自らの経験を基に、栄養教育現場における活用を想起させながら行動科学理論の理解に導く授業を行う。											
<b>到達目標</b> 対象者の情報収集・課題の抽出・目標設定・栄養教育計画の立案・実施方法の検討・評価等の栄養教育活動の一連のマネジメントを理解することができる。その中で、行動科学の理論やモデルの特徴を説明できる。				<b>成績評価の方法と基準</b> 授業態度やグループ課題への取り組み、試験（中間試験も含む）で総合評価する。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 栄養教育の概念(目的・目標、対象と機会)を説明できる。				10	2	4	0	0	0	4	0
(2) 栄養教育のマネジメントサイクルを理解し、全体像を説明できる。				40	5	15	5	0	0	15	0
(3) 栄養教育に係る行動科学の理論とモデルの活用方法を説明できる。				10	2	4	0	0	0	4	0
(4) 栄養教育の行動変容技法の活用方法を説明できる。				40	5	15	5	0	0	15	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 栄養教育の概念その1：栄養教育の目的・目標及び関係法規（第1章）p1～P24</b>											
栄養教育の必要性を考える。また、栄養教育と健康教育・ヘルスプロモーション、さらに栄養教育と生活習慣について考える。 また、栄養調理六法の引き方を理解する。				教科書の11の章立てが、どのように構成されているか実際にページを開いて概要をつかむ。 栄養士・管理栄養士業務における栄養指導の業務等についてどのような法律で規定されているかを栄養調理六法で調べる。							
<b>(2) 栄養教育の概念その2：栄養教育の対象と機会及び関係法規（第1章）p1～P24</b>											
栄養教育の対象をライフステージ、ライフスタイル（生活習慣）、予防医学を踏まえた健康状態からとらえる。また、個人・組織・地域社会のレベル別に、栄養教育の対象と機会を考える。				ライフステージ・ライフスタイル、健康・栄養状態などからみた自分に身近な人々についてイメージしてみる。							
<b>(3) 栄養教育の概念その3：栄養教育の対象と機会及び関係法規 p1～p24</b>											
2年前期の見学施設に係る根拠法令を調べる。 栄養ケアマネジメントから栄養ケアプロセスの流れの概要を、教科書p20表1-6の事例を活用して理解する。				2年前期の管理栄養士基礎演習の教科書「導入教育」を活用する。また、実習事前学習会や報告会資料に関連する箇所を学習する。							
<b>(4) 栄養教育のための理論的基礎その1：行動科学の理論とモデルNo1（第2章）p26～p28</b>											
行動科学の定義を理解する。刺激-反応理論（オペラント学習理論）が説明できるようになり、栄養教育への活用を考える。				刺激統制、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化などの行動変容技法が身近な例を挙げて説明できる。							
<b>(5) 栄養教育のための理論的基礎その2：行動科学の理論とモデルNo2（第2章）p28～p30</b>											
認知再構成、意思決定バランス、目標宣言、行動契約、ストレスマネジメントなどの行動変容技法を理解する。				オペラント条件づけの基本図式を日常の自分や他者の行動にあてはめて考えてみる。							
<b>(6) 栄養教育のための理論的基礎その3：行動科学の理論とモデルNo3（第2章）p30～p32</b>											
社会的認知理論及びヘルスピリフモデルを理解し、栄養教育への活用を考える。 また、本理論を応用したセルフモニタリングやソーシャルスキルトレーニング、自己効力感等の行動変容技法を理解する。				社会的認知理論やヘルスピリフモデルの構成要素とその定義について身近な例をあげて活用できるようになる。							
<b>(7) 栄養教育のための理論的基礎その4：行動科学の理論とモデルNo4（第2章）p33～p36</b>											
トランスセオレティカルモデル（汎理論的モデル、行動変容の段階モデル、）を理解し、栄養教育への活用を考える。				社会的認知理論の構成概念は、どのような点で類似しているか、あるいは異なるか整理する。							
<b>(8) 栄養教育のための理論的基礎その5：行動科学の理論とモデルNo5（第2章）p33～p36</b>											
汎理論的モデル(行動変容の段階モデル、トランスセオレティカルモデル)を理解し、栄養教育への活用を考える。				栄養教育面からの栄養介入への応用についてイメージする。							
<b>(9) 栄養教育のための理論的基礎その6：行動科学の理論とモデルNo6（第2章）p36～p38</b>											
計画的行動理論、ソーシャルサポートを理解し、栄養教育への活用を考える。				自分のソーシャルネットワークや今後必要と思われるソーシャルサポートなどについて考える。							

<b>(10) 栄養教育のための理論的基礎その7：行動科学の理論とモデルNo7（第2章） p39～p43</b>	
コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、コミュニケーション理論、ヘルスリテラシーを理解し、栄養教育への活用を考える。	地区組織活動（食生活改善推進協議会活動）について、山口市等周辺自治体の広報や自治体ホームページで調べる。
<b>(11) 栄養教育のための理論的基礎その8：行動科学の理論とモデルNo8（第2章） p39～p41</b>	
中間テストを行う。組織づくり、地域づくりへの展開（セルフヘルプグループ、組織、ネットワーク作り、グループダイナミクス、エンパワメント、ソーシャルキャピタル）を理解する。	前回学習した認知再構成、意思決定バランス、目標宣言や行動契約などについて今一度整理する。
<b>(12) 栄養教育のための理論的基礎その9：行動科学の理論とモデルNo9（第2章） p41～p42</b>	
プリシード、プロシードモデルを理解し、栄養教育マネジメントへの活用をイメージする。	健康教育とヘルスプロモーションのための介入モデルである、本モデルを禁煙予防を例にモデルにあてはめてみる。
<b>(13) 栄養教育のための理論的基礎その10：行動科学の理論とモデルNo10（第2章） p43</b>	
ソーシャルマーケティングについて理解し、栄養教育マネジメントへの活用をイメージする。	マーケティングミックス（4P）についてさらに学習する。
<b>(14) 栄養教育のための理論的基礎その10：行動科学の理論とモデルNo10（第2章）</b>	
生態学的モデルについて理解し、栄養教育マネジメントへの活用をイメージする。続いて行動経済学的手法であるナッジを理解する。	各種理論について栄養教育における具体的な活用方法を説明できるようにする。
<b>(15) まとめ</b>	
学習した行動科学理論やモデルを、振り返り整理する。	3年次の栄養教育論演習や実習などで、理論や技法が活用できるように整理する。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
栄養調理六法（平成31年版）及びマスター栄養教育論（出版社:建帛社）	* 出席及び授業態度の評価 ・ 欠席及び遅刻の状況 ・ 授業態度は、授業中の協議や質疑応答の状況
<b>受講生へのメッセージ</b>	*中間試験、期末試験は記述、および国家試験形式とする。
普段、帰省先の市町村及び山口市の広報やホームページなどで、住民へどのような健康・栄養教育に関連するサービスが行われているか意識してみましょう。もちろん、行政に関わらず、病院や福祉施設などの情報誌やホームページに積極的に目を向けてみてください。	

科目名	給食経営管理論 I			コード	N003601a						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期							
講義	必修	2	2	後期							
担当者名	山崎 あかね										
<b>授業概要</b>											
特定多数人に対して栄養・食事管理を行うために必要な知識と、給食業務を円滑にマネジメントするための基本的考え方や方法について講義する。また、栄養・食事管理およびサービスを効率的かつ安全に運営するための資源およびシステム構築と、それをマネジメントするために必要となる生産管理の理論や手法について解説する。											
【実務系科目】 管理栄養士として病院に勤務した経験を持つ教員が、医療機関の実務経験をもとに給食経営管理について講義を行う。											
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>							
学生は主に栄養面・安全面のマネジメントを行うために必要な知識と生産管理の基本的考え方を理解する。				下記項目を参照のこと。							
<b>学習目標</b>				<b>評価項目と割合</b>							
<b>具体的学習目標</b>				配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 特定給食施設の栄養・食事管理について説明できる				25	5	5	0	0	0	15	0
(2) 基本的な給食業務のマネジメントについて説明できる				25	5	5	0	0	0	15	0
(3) 特定給食施設における衛生管理について説明できる				25	5	5	0	0	0	15	0
(4) 特定給食施設のプロセス管理について説明できる				25	5	5	0	0	0	15	0
<b>授業の項目と内容</b>				<b>自主学習課題</b>							
<b>(1) 給食の概念</b>											
給食の定義や目標、概念について解説する。				給食の概念について教科書を用いて復習する。							
<b>(2) 給食システム</b>											
給食システムについて解説する。				給食システムについて教科書を用いて復習する。							
<b>(3) 給食の施設・設備管理 (1)</b>											
給食の施設・設備設計や、生産ラインと作業動線、施設設備の稼働や保全について解説する。				生産計画と施設・設備を関連づけて理解し、教科書を用いて復習する。							
<b>(4) 給食の施設・設備管理 (2)</b>											
給食の施設・設備設計や、生産ラインと作業動線について実習室を用いて体験する。				生産計画と施設・設備を関連づけて理解し、教科書を用いて復習する。							
<b>(5) 食材の流通・生産管理</b>											
食材の流通・生産管理について解説する。				食材の流通・生産管理について教科書を用いて復習する。							
<b>(6) 給食の安全衛生・危機管理 (1)</b>											
衛生・安全管理、HACCP、事故、災害時対策について3回に分けて解説する。1回目は大量調理マニュアル、HACCPについてを解説する。				給食の安全のための管理と対策について教科書を用いて復習する。							
<b>(7) 給食の安全衛生・危機管理 (2)</b>											
衛生・安全管理、HACCP、事故、災害時対策について3回に分けて解説する。2回目は食中毒対策等の事故対策について解説する。				給食の安全のための管理と対策について教科書を用いて復習する。							
<b>(8) 給食の安全衛生・危機管理 (3)</b>											
衛生・安全管理、HACCP、事故、災害時対策について3回に分けて解説する。3回目は災害時等の対策について解説する。				給食の安全のための管理と対策について教科書を用いて復習する。							
<b>(9) 給食の品質管理</b>											
品質管理の目標、調理工程の標準化、品質保証、品質評価について解説する。				給食の品質管理について教科書等を用いて復習する。							
<b>(10) 給食の運営</b>											
給食の運営の実際について解説する。				給食の運営について教科書等を用いて復習する。							
<b>(11) 給食における栄養・食事管理 (1)</b>											
栄養・食事管理の概要、対象者の栄養アセスメント、栄養計画への食事摂取基準の活用、献立計画について解説する。				対象者の栄養アセスメントに応じた栄養計画について教科書等を用いて復習する。							
<b>(12) 給食における栄養・食事管理 (2)</b>											
対象者の栄養アセスメント、栄養計画、献立計画について症例を用いて演習する。				対象者の栄養アセスメントに応じた栄養計画について教科書等を用いて復習する。							
<b>(13) 献立計画 (1)</b>											
給食で提供可能な献立について検討し作成する。				次週までに献立を完成させる。							

<b>(14) 献立計画 (2)</b>	
前週の献立から、実際の生産（調理）計画を作成する。	これまでの授業の復習を教科書等で行うこと。
<b>(15) まとめ</b>	
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
給食経営管理論（南江堂）給食施設のための献立作成マニュアル（医歯薬出版）	
<b>受講生へのメッセージ</b>	
国家試験のガイドラインに沿って講義を進めていきます。授業は必ず出席してください。	

公立大学法人山口県立大学 理事名簿

学外者	役 職	氏 名	備 考
○	理事長（常勤）	前川 剛志	
	副理事長（常勤）	加登田恵子	山口県立大学長
○	専務理事（常勤）	河村 邦彦	山口県立大学事務局長
○	理事（非常勤）	松永 正実	
○	理事（非常勤）	門田 栄司	

○平成30年度山口県立大学客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料

客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料							
GPAにより分布を示す							
学科名	国際文化学科		学年	1	学生数	66	
指標の数値	0.50～1.00	1.01～1.50	1.51～2.00	2.01～2.50	2.51～3.00	3.01～3.50	3.51～4.00
人数	1	2	4	10	24	23	2
下位1/4に該当する人数:17人 下位1/4に該当する指標の数値:2.50 ※休学者は除く							

客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料							
GPAにより分布を示す							
学科名	文化創造学科		学年	1	学生数	59	
指標の数値	0.50～1.00	1.01～1.50	1.51～2.00	2.01～2.50	2.51～3.00	3.01～3.50	3.51～4.00
人数	2	1	2	11	22	21	0
下位1/4に該当する人数:15人 下位1/4に該当する指標の数値:2.47 ※休学者は除く							

客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料							
GPAにより分布を示す							
学科名	社会福祉学科		学年	1	学生数	101	
指標の数値	0.50～1.00	1.01～1.50	1.51～2.00	2.01～2.50	2.51～3.00	3.01～3.50	3.51～4.00
人数	0	1	3	9	37	42	9
下位1/4に該当する人数:26人 下位1/4に該当する指標の数値:2.68							

客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料							
GPAにより分布を示す							
学科名	看護学科		学年	1	学生数	57	
指標の数値	0.50～1.00	1.01～1.50	1.51～2.00	2.01～2.50	2.51～3.00	3.01～3.50	3.51～4.00
人数	0	0	0	5	20	30	2
下位1/4に該当する人数:14人 下位1/4に該当する指標の数値:2.83							

客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料							
GPAにより分布を示す							
学科名	栄養学科		学年	1	学生数	40	
指標の数値	0.50～1.00	1.01～1.50	1.51～2.00	2.01～2.50	2.51～3.00	3.01～3.50	3.51～4.00
人数	0	0	1	0	9	22	8
下位1/4に該当する人数:10人 下位1/4に該当する指標の数値:3.00							

確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

学 部	学 科
国際文化学部	国際文化学科
	文化創造学科
社会福祉学部	社会福祉学科
看護栄養学部	看護学科
	栄養学科